



ナザレン教会の信仰

Nazarene Essentials

～わたしたちは何者か そして何を信じているのか～

わたしたちは信じます

1. 父、子、聖霊なる唯一の神を
2. 旧約、新約聖書は神の十全な靈感によって与えられ、キリスト者としての信仰と生き方に必要なすべての真理を含むことを
3. すべての人は堕落した状態に生まれ、それゆえ悪へと傾き、常にそうであることを
4. 最後まで悔い改めない者は希望なしに永遠に失われることを
5. イエス・キリストによるあがないはすべての人のためであり、悔い改めて主イエス・キリストを信じる者は義とされ、再生されて、罪の支配から救われることを
6. 信じる者は主イエス・キリストへの信仰により、再生の後、完全に聖なる者とされることを
7. 聖霊は、新生と信じる者の全き聖化を証することを
8. 主が再び来られ、死者はよみがえらされ、最後の審判がおこなわれることを

目 次

巻頭言	・・・・・・・・・・	1 p
『ナザレン教会の信仰』をお読みくださる方へ	・・・・・・・・・・	2 p
わたしたちのウェスレー・ホーリネスの伝統	・・・・・・・・・・	3 p
わたしたちの世界教会	・・・・・・・・・・	7 p
わたしたちがもっとも大切にすること (Core Values)	・・・・・・・・・・	10 p
わたしたちの使命	・・・・・・・・・・	14 p
わたしたちのナザレン教会の特徴	・・・・・・・・・・	15 p
わたしたちのウェスレー神学	・・・・・・・・・・	34 p
わたしたちの信仰箇条	・・・・・・・・・・	37 p
わたしたちの教会論	・・・・・・・・・・	45 p
わたしたちの教会制度	・・・・・・・・・・	47 p
教会：各個教会、部会、総会	・・・・・・・・・・	49 p
一つに結ばれた教会	・・・・・・・・・・	51 p
追記 日本ナザレン教団 宣教宣言	・・・・・・・・・・	54 p
あとがき	・・・・・・・・・・	58 p

神の教会は、地上と天上におけるもっとも崇高な在り方として、共に集い、
教え、一致した礼拝を^{ささ}げますが、しかしそのすべては一人ひとりが
神の御子に倣う者となることを手助けするためのものです。

フィニアス・F・ブリジー (Phineas F. Bresee)

ナザレン教会 初代監督

日本語版ナザレンエッセンシャルズ 『ナザレン教会の信仰』 出版によせて

理事長 古川 修二

世界中で、ナザレン教会の牧師、信徒、新たに教会員となった人々から待望されていたナザレン教会の基本的な教え、歴史、神学、使命等についての小冊子『Nazarene Essentials』が発行されました。それが日本語に翻訳、出版されることを心から喜び、このために多大の労を取ってくださった方々に感謝し、主の御名を崇めます。

ナザレン教会には、教会規則「マニュアル」があり、日本の私たちには、2004年に改訂された「ナザレン教会信徒必携」がありますが、今回発行された「ナザレン教会の信仰」で、私たちはナザレン教会について、より簡潔に、より深く理解することができるようになりました。何よりもナザレン教会が大切にしている基本的な教え、世界の人々と共に目指している共通の使命について理解を深めると共に、これを繰り返し読み、実践することによって、「喜びをもって主に仕え、主に信頼して善をおこない」聖霊によって、実を豊かに結ぶ者とされることを確信致します。

ナザレン教会はキリスト教会の歴史の一部であることを信仰として告白しています。私たちの教会の歴史はキリスト教会の歴史の一部です。そしてナザレン教会は、プロテスタント宗教改革を原点とし、18世紀のウェスレーの信仰復興運動に由来し、「キリスト者であること、聖なること、宣教的民であること」という三つの核を「私たちが最も大切にすること」として自覚し、「国々でキリストに倣う弟子を作るために」という宣教標語を掲げて前進してきました。

その宣教的情熱を失うことなく、ナザレン教会は「中庸の道」を歩んで参りました。様々な問題や課題に対して、両極端の立場をとることなく、可能な限り、聖書的にバランスのとれた道を目指してきたのです。それは単に中間を歩むというのではなく、キリストの弟子たちが目指した福音宣教と社会活動、そして教育に最初から力を注ぎ、主イエスに救われ、聖なる者とされ、全き福音に生きる聖化の道を歩んできたということです。この恵みをすべての人々と分かち合い、福音が力強く前進し、教会が美しく建て上げられ、主の栄光を現すことができますようにと祈ります。

なお、ナザレン教会は、「それぞれの文化的特質を完全に受け入れた上で、信仰者の世界的交わりに基づく世界教会」であることを認めています。そのことを喜びつつ、「ナザレン教会の信仰」に、追記として「日本ナザレン教団宣教宣言」を掲載させていただきます。

『ナザレン教会の信仰』をお読みくださる方へ

次世代を担う霊的指導者と新たにナザレン教会員になった人々から、基本的な教会の教え、歴史、神学、使命、財政、基本事項を簡潔に、解りやすく、誰でも読めるような冊子として発行してほしいとの要望が多くありました。

『ナザレン教会の信仰』(Nazarene Essentials) は、ナザレン教会がウェスレー・ホーリネス主義の伝統に基づいて、全世界においてホーリネスと大宣教命令を推進するために存在することを説明しています。

『ナザレン教会の信仰』は、牧師、信徒にかかわらず、教会の使命である霊的な聖性と全世界でキリストに倣う弟子をつくることについて、いっそう理解を深めるために役立つことでしょう。

『ナザレン教会の信仰』の英語(原語)版は、ホームページ nazarene.org の監督局のページ、または直接、www.nazarene.org/essentials にアクセスして入手できます。ここではさらなる資料と諸国語に翻訳された Nazarene Essentials を見ることもできます。

『ナザレン教会の信仰』を読み、学ぶことによって、ナザレン教会について、またナザレン教会が心からイエス・キリストの良い知らせを分かち合いたいと願っていることを知っていただきたいと思います。

注：『ナザレン教会の信仰』はナザレン教会のマニュアルに代わるものでなく、補足するものです。

わたしたちのウェスレー・ホーリネスの伝統

ナザレン教会は、「唯一の、聖なる、公同の、使徒的な」キリストの教会の一部であることを信仰として告白します。わたしたちの教会の歴史はキリストの教会の歴史の一部です。旧新約聖書における神の民の歴史とすべての時代の神の民の歴史は、形態の違いを超えてキリストの教会の歴史であり、わたしたちの歴史でもあります。教会のはじめの五世紀に形作られた公同の信条が教会の信仰を規定していることをわたしたちも信じます。

代々の教会と同じく、わたしたちも神の言葉を宣べ伝え、秘跡（サクラメント）を執りおこない、使徒的信仰と実践を受け継ぎ、キリストに倣う生活と奉仕のための訓練を施します。日々御言葉に聴き、整えられる生き方をします。わたしたちは、いかなる時も、どんな場所にいても、聖なる生き方をし、神の召命に従順に従うことができるよう自分の心と身体を整えた生活を目指します。これは、キリスト者の全き聖化の姿であり、喜んでわたしたちの信仰をここに表明します。

わたしたちの信仰の伝統は、プロテスタント宗教改革、特に16世紀の英国の宗教改革を原点とし、18世紀のウェスレーの信仰復興運動に由来しています。ウェスレー兄弟の説教をとおして、英国全土、スコットランド、アイルランド、ウェールズなどで多くの人々が罪から救われ、信仰の働きへと励まされたのでした。この信仰復興運動の特徴としては、信徒による説教、信仰の証、信仰者としての規律、「会（ソサエティ）」「組会（クラス）」「バンド（班 *訳注：日本ではバンドと呼ばれることが多い）」などの形成があげられます。ウェスレーによる信仰復興運動の神学的な強調点として、信仰による恵みとしての義認、同じく信仰による恵みとしての聖化もしくはキリスト者の完全、そして恵みの保証としての聖霊の証があげられます。

ジョン・ウェスレーがなした大きな貢献の一つが、キリスト者の生涯に対する神の恵みとしての全き聖化を強調することでした。この教理は世界中に広まり、北米では「アメリカを改革し、聖潔を全土に広めるため」、1784年にメソジスト・エписコパル・チャーチ（Methodist Episcopal Church）が設立されました。

19世紀中頃になると聖化（ホーリネス）の教理がいっそう展開され、マサチューセッツ州ボストンのティモシー・メリットは「キリスト者の完全への手引」（the Guide to Christian Perfection）の編集者として人々の関心を引き起こしました。ニューヨークではフィービー・パーマーが「ホーリネスを推進する火曜集会」を主宰し、説教者、執筆者、編集者としても広く知られるようになりました。1867年、著名なメソジストの説教者であったジョンA・ウッド、

ジョン・インスキップその他が、ニュー・ジャージー州ヴァインランドで初めての長期間にわたるホーリネスの“キャンプ ミーティング”を開きました。この集会は世界各地でウェスレーの説いたホーリネスを推進する原動力となりました。

その時代、聖化の教理は、ウェスレアン・メソジスト、フリーメソジスト、救世軍、メノナイト、ブレズレン、クエーカー等によって説かれていました。伝道者たちは、この運動をドイツ、英国、スカンジナビア、インド、オーストラリアへと伝え、また、チャーチ・オブ・ゴッド教団、ホーリネス諸教会など新しいホーリネス教会が設立され、さまざまな都市伝道協会や宣教協会が生まれ出されました。ナザレン教会 (The Church of the Nazarene) は、ホーリネス主義の諸教会が一つのホーリネス教会へと合同したいという強い願いによって誕生した教会です。

ホーリネスによる一致

1887年、フレッド・ヒラリーがロードアイランド州プロビデンスにおいてピープルズ・エバンジェリカル・チャーチを組織し、その翌年にはマサチューセッツ州リン市にミッション・チャーチが設立されました。1890年には、これらの教会の他にニューイングランドの八つの教会が加わって、セントラル・エバンジェリカル・ホーリネス・アソシエーションが結成されました。1892年に按手を受けたアンナ・S・ハンスカムは、ナザレン教会の歴史へと連なる、最初の女性受按牧師となりました。

1894年から1895年に、ウィリアム・ハワード・フープルがニューヨークのブルックリンで三つのホーリネス集会を組織し、アメリカ・アソシエーション・オブ・ペンテコスタル・チャーチズが結成されました。当時、「ペンテコスタル」と「ホーリネス」はやがてナザレン教会を設立する指導者たちにとって、同義と見なされていました。1896年にヒラリーとフープルのグループが合併し、1899年にインドで、1901年にカーボヴェルデで伝道を開始しました。1902年にはハイラム・レイノルズがカナダで会衆を組織し、1907年までにノバ・スコティアからアイオワに至る各地で教会を建設しました。

1894年になると、ロバート・リー・ハリスがテネシー州ミランでニューテストメント・チャーチ・オブ・クライストを組織し、夫の死後、妻のメアリ・リー・ケイグルが1895年に働きをテキサス西部にまで広げました。1901年、C・B・ジャーニガンはテキサス州バン・アルスタイン・ファースト・インディペンデント・ホーリネス・チャーチを組織しました。1904年、この二つの教会の代表者たちは合同することを決定し、テキサス州ライジングス

ターにホーリネス・チャーチ・オブ・クライストを設立しました。この教会は1908年までには、ジョージア州からニューメキシコ州へと広まり、貧しい人々、身寄りのない人々の世話をし、孤児や未婚の母の支援に当たりました。また、この頃インドや日本へ宣教師を派遣するようになりました。

1895年、フィニアス・F・ブリジーとジョゼフ・P・ウイドニーは、100名以上の創立会員をもって、ロサンゼルスに、ナザレン教会 (the Church of the Nazarene) を結成しました。彼らは、信仰によって聖化されたキリスト者は、キリストに倣った聖なる生き方をめざし、貧しい人々への福音伝道を使命とすることを確信しました。彼らは困っている人々の魂の救いのために時間と金銭を惜しみなく捧げました。ナザレン教会は当初、米国西海岸沿いに広がり、東はイリノイ州にまで及んでいました。また、インドのカルカッタで人々の救済のために福音を伝えました。

1907年10月イリノイ州シカゴにおいて、アメリカ東部で活動していたアソシエーション・オブ・ペンテコスタル・チャーチズとチャーチ・オブ・ザ・ナザレンの代表者が集まって合同総会を開き、監督制度 (Superintendency) と会衆制度 (Congregational Rights) の二つの教会政治の考え方を調和させ、監督は既存の教会に配慮し、新たな教会を設立して励ましますが、完全に組織化されている教会については、個々の教会の裁量に介入しないこととしました。ホーリネス・チャーチ・オブ・クライストの代表もこの総会に出席していました。この総会において、二つの教会の名称を合わせて、ペンテコスタル・チャーチ・オブ・ザ・ナザレン (the Pentecostal Church of the Nazarene) と称することが決まり、ブリジーとレイノルズが初代の監督に選出されました。(訳注: the Church of the Nazarene は「ナザレン教会」と訳します。)

1908年9月、H・G・トランバウアーの指導のもと、ペンシルヴァニア・カンファレンス・オブ・ザ・ホーリネス・クリスチャン・チャーチが、ペンテコスタル・ナザレン教会に合同しました。同年10月13日、テキサス州パイロット・ポイントで開かれた第二回ペンテコスタル・ナザレン教会総会では、ホーリネス・チャーチ・オブ・クライストの総会も開催され、両教会の合同が実現しました。

1898年にJ・O・マクルーカンの主導のもと、テネシー州および周囲の諸州のホーリネス信仰を持つ人々が集まり、テネシー州ナッシュビルでペンテコスタル・ミッションを組織しました。このグループは、キューバ、グアテマラ、メキシコ、インド等の国々へ伝道師や宣教師を派遣しました。1906年、ジョージ・シャープが、ウェスレーの唱えた聖潔の教理を説教したという理由で、スコットランド、グラスゴーのパークヘッド組合教会から追放されました。

彼のもとでパークヘッド・ペンテコスタル教会と、続いて他の会衆が組織され、1909年にはペンテコスタル・チャーチ・オブ・スコットランド (the Pentecostal Church of Scotland) が組織されました。ペンテコスタル・ミッションとペンテコスタル・チャーチ・オブ・スコットランドは、1915年にペンテコスタル・ナザレン教会と合同しました。

1919年に開催された第5回総会において、ペンテコスタル・ナザレン教会の名称は、ナザレン教会へと変更されました。19世紀後半になると、「ペンテコスタル」(Pentecostal)の意味がかつての創立者の時代と異なり、「聖化の教理」(the doctrine of holiness)とは別の意味合いを持つようになったからです。こうして新たに誕生した若い教団は、全き救いの福音を宣べ伝えるという、当初からの使命に忠実であり続けてきました。



1908年8月テキサス州パイロットポイントでの教会総会

わたしたちの世界教会

ナザレン教会の基本的特質は、1915年に合同した当初の教会によって形作られましたが、その特質の中には国際性も含まれていました。発足当初から、米国、インド、カーボヴェルデ、キューバ、カナダ、メキシコ、グアテマラ、日本、アルゼンチン、英国、スワジランド、そして中国に、自立教会が存在していました。1930年までには、南アフリカ、シリア、パレスチナ、モザンビーク、バルバドス、そしてトリニダードに拡がりました。こうした国際的拡がりには、現地の指導者たちの存在が不可欠でした。たとえばメキシコのV・G・サンテン、日本の喜田川広、インドのサムエル・ブジャバルなど部会監督の職務を担った人々がそうです。こうした国際性の特徴は、さらなる加盟者によっていっそう進められてゆきました。

1922年、J・G・モリソンは、南北ダコタ、ミネソタ、モンタナの1000名以上のレイマーズ・ホーリネス・アソシエーションの牧者と信徒を率いてナザレン教会に合流しました。1945年にはA・A・E・バーグによってオーストラリアの教団が合流し、1948年にはアルフレッド・デロロサがイタリアの教会をナザレン教会との合同に導き、1950年には南アフリカのヘフジバ宣教団とアイオワ州タボルの宣教団本部が、ナザレン教会に合流しました。

1907年にデービッド・トーマスによってロンドンで設立された国際ホーリネス宣教団は、デービッド・ジョーンズによって南部アフリカで活発に宣教し、1952年にアフリカと英国の教会がJ・B・マックレーガンによってナザレン教会に合同しました。メイナード・ジェームスとジャック・フォードは1934年に英国でカルバリー・ホーリネス教会を組織し、1955年にナザレン教会に合流しました。カナダ・オンタリオ州のフランク・ゴフが1918年に設立したゴスペル・ウォーカーズ・チャーチは1958年にナザレン教会に合同しました。1940年代にナイジェリアで生まれた土着のナザレン教会は、1988年にジェレマイア・U・エカイデムにより国際的なナザレン教会の一部として加入しました。こうしたさまざまな合同をとおして、ナザレン教会は国際性という特質を強めてきたのでした。

こうした成長の中で、ナザレン教会は意識的に、一般的なプロテスタントの仕組みとは異なるモデルを発展させてきました。1976年には教団の将来を検討する委員会を立ち上げ、この委員会は1980年の世界総会において、二つの原則に基づく国際化の方針を採用することを勧告しました。二つの原則とは以下のとおりです。

第一に、ナザレン教会のすべての教会および部会は「それぞれの文化的特質を完全に受け入れた上で、信仰者の世界的交わりに基づく世界教会」であることを認める。第二に、「ナザレン

教会が担うべき特別な使命」を共有すること、すなわち「霊的な聖性を宣べ伝えることがナザレン教会の存在意義（アイデンティティ）として妥協の余地のない核心である」ことを共有することです。

1980年の世界総会は、信仰箇条における「神学における国際的一致」を大切なこととして受け止め、すべての牧師が神学教育を受けることの大切さを表明し、世界の各地域での神学教育機関を支援することを確認しました。ナザレン教会に属する人々は、聖化を中心とした一つの国際的な関係性の枠組みへと成熟するよう促されています。それは、「強い者と弱い者、与える者と与えられる者」といった植民地主義的な考えで人々や国を評価することを放棄して、「まったく新しい世界理解、すなわちすべての人々の強さと対等性を認めてパートナーとして受け入れ合う世界理解」を持つということです。

それ以来、ナザレン教会はプロテスタント教会の中で独特な成長をしてきました。1998年までにナザレン教会員の半数がアメリカとカナダ以外の人々になりました。2001年の世界大会の代議員の41%は英語が第2言語かまたはまったく話せない人々でした。2009年にはカーボヴェルデ出身のアフリカ人、ユージニオ・デュアルテが監督の一人として選出されました。

ナザレン教会の国際的働き（ミニストリー）の特徴

歴史的にナザレン教会は福音宣教、社会的活動、そして教育に力を注いできました。多様な文化を背景に持つ宣教師たちや、おびただしい数の牧師や信徒による相互協力をとおして、彼らはウェスレー主義の原則をそれぞれの文化の中に根付かせたのでした。

ハイラム・レイノルズは、ナザレン教会における多様な文化間での働きと、世界の福音宣教についての基本的概念を形成しました。彼は25年にわたる監督としての働きをとおして、宣教を教派の優先課題とし続ける役割を担いました。1915年以来、世界宣教局NMI（かつての「女性宣教協会」）は世界中の教会員に働きかけて宣教資金を集め、宣教教育を推進しています。

初期のナザレンの人たちは憐みと愛の人々でした。神の恵みを表すために、インドで婦人の解放を支援し、孤児院の建設、未婚の女性の母子施設、都市での中毒患者やホームレスへの支援をおこなってきました。1920年代には社会支援活動は医療に拡がりました。ナザレン教会は中国、スワジランド、その後インド、パプアニューギニアに病院を建てました。ナザレン

の医療専門家は病気の治療、手術、看護師の訓練、そして最貧地域の人々のための移動診療車を支援しました。またアフリカでのハンセン病施設などの特別な診療所を造ってきました。

1980年代に教会は Nazarene Compassionate Ministries (NCM) を設立しました（訳注：**Compassion** をどう日本語に訳すかは、この働きが日本でも始められた時からの課題でした。現在まで、日本では「ナザレン国際援助委員会」と称しています。直訳すれば、「ナザレン共感宣教団体」ということでしょうか）。これにより社会支援への幅広い対応が可能となり、引き続き今日では、子ども育成支援 (Child Sponsorship)、災害救済、エイズ救済、孤児支援、給水事業、食料支援その他の働きを担っています。

日曜学校と聖書研究は常にナザレンの信徒の生き方の一部であり、キリストに倣う弟子を育成するために重要な働きを担ってきました。ナザレン教会は最初から基礎教育と識字教育を支援してきました。最初の例としては1905年にカルカッタに女学校「ホープ・スクール」が創設されました。ナザレン教会が運営する学校は世界各地において、人々があらゆる面で社会生活を十分に営むことのできるための教育をおこなっています。米国で設立された初期のナザレン大学は、二十世紀中頃まで付属小学校と中学校を擁していました。

ナザレン教会の創立者たちは高等教育に力を注ぎました。牧師を育成しキリスト者の奉仕者を訓練することは最重要と信じていました。信徒を養成するためにも高等教育は不可欠でした。国際教育局に属するナザレンの世界中の高等教育施設としては、アフリカ、ブラジル、カナダ、カリブ、韓国、米国に四年制大学があり、インドとパプアニューギニアには看護学校があります。さらには聖書学校と神学校が世界の6地域に存在し(アフリカ、アジア太平洋、ユーラシア、中米、南米、北米)、修士課程の神学校がオーストラリア、コスタリカ、英国、フィリピン、米国にあります。

ナザレン教会は、時と共に世界中に存在する教会から、一つの世界的な信仰者の共同体へと成長しました。ナザレン教会はウェスレーの伝統に基づき、自らを「キリスト者である、聖なる、宣教的」民であり、「国々でキリストに倣う弟子をつくるために」という宣教標語を掲げています。

ナザレン教会の使命は国々でキリストに倣う弟子を育成することです。

わたしたちがもっとも大切にすること (Our Core Values)

1. わたしたちは一つのキリストの民です。

わたしたちは公同の教会に属することを信じ、イエス・キリストが主であることを公に告白し、三位一体の神を告白する歴史的信条とキリスト教信仰の内容に同意します。わたしたちは、ウェスレー・ホーリネス主義の伝統を重んじ、それが聖書、理性、伝統、そして体験に忠実な信仰理解であると信じます。

わたしたちは、すべての信仰者と共に、イエス・キリストが天と地の主であると宣言します。わたしたちは神の大いなる愛によってすべての人の罪が赦され、神との関係が回復されることを信じます。神と和解している者として、わたしたちは人間同士も互いに和解し、神に愛されているように愛し合い、神によって赦されているようにゆるし合うべきであることを信じます。わたしたちは、わたしたちが共に生きることによってキリストの姿を証すべきことを信じます。わたしたちは、聖書が、理性と伝統と体験によって保証される霊的真理の源泉であることを信じます。

わたしたちは、すべての聖徒たちと共に、イエス・キリストが主であることを宣言します。

イエス・キリストは、ニカイア信条が宣言するとおり、一つの、聖なる、普遍的、使徒的な教会の主です。イエス・キリストにより、聖霊によって、父なる神は罪の赦しと世界全体との和解を与えてくださいます。信仰によって神の和解の申し出を受け入れた者は、神の子とされます。わたしたちはキリストにおいて赦しと和解を受けたのですから、わたしたちは互いにゆるし合い、和解します。このことにより、わたしたちはキリストの教会であり、キリストの体であり、そして体は一つであることを示します。キリストの体が一つなのですから、わたしたちは一人の主、一つの信仰、一つのバプテスマを持っています。わたしたちはキリストの教会が一つであることを確信し、あらゆることを通してそのことを守ります。(エフェ4：5，3)

2. わたしたちは聖なる民です。

聖なる神は、わたしたちを聖なる生き方へと召しておられます。わたしたちは聖霊がわたしたちの内に働いて、「全き聖化」「聖霊のバプテスマ」など、さまざまな仕方で言い表される第二の恵みの働きをなそうとてくださることを信じます。この恵みの働きは、わたしたちをすべての罪から洗いよめ、神の像(かたち)へと再生し、心と精神と思いと力を尽くして神と

隣人とわたしたち自身を愛するように力づけ、わたしたちの内にキリストの性質をつくり出してください。信仰者の生涯における聖性（ホーリネス）は、「キリストに倣うこと」としてもっとも良く理解することができます。

わたしたちを神の似姿へと回復し、わたしたちの内にキリストの性質を作り上げてくださるのは聖霊です。

わたしたちは聖書を通して、恵みによって神を礼拝し、心と精神と思いと力を尽くして神を愛するように、そして隣人を自分自身のように愛するようにと召されているので、第二の大きな体験である「全き聖化」を信じつつ、自らをまったく完全に神に献げます。わたしたちは聖霊がわたしたちに確信を与え、きよめ、神の恵みが日毎にわたしたちを愛の民へと造り変えるよう力づけてくださり、霊的な訓練と、倫理的・道徳的純粋さと、共感と、正義を与えてくださることを信じます。わたしたちを神の像へと回復して、キリストの性質をわたしたちの内につくり出してくださるのは、聖霊の働きです。

わたしたちは、すべてのものを無から有へと呼び出された創造主である父なる神を信じます。かつて存在していなかったわたしたちが存在へと呼び出され、神のために、神の像に似せて創造されました。わたしたちは神の像を帯びて生きるべき務めを負っています。「わたしはあなたたちの神、主である。あなたたちは自分自身を聖別して、聖なる者となれ。わたしが聖なる者だからである。」（レビ 11：44a）

3. わたしたちは宣教する民です。

わたしたちは、キリストによる召しに応え、聖霊によって力づけられて世に出て行く、遣わされた民であり、キリストが主であることを証し、神の教会を建て、神の国を広げる働きにあずかる者です（マタ 28：19～20、Ⅱコリ 6：1）。わたしたちの使命（mission）は（a）礼拝に始まり、（b）伝道と憐れみの働きによって世に仕え、（c）弟子としての訓練を通して信仰者をキリスト教的な成熟へと促し、（d）キリスト教に基づく高等教育をとおして男女をキリスト教の働きのために備えさせることにあります。

（a）わたしたちの使命としての礼拝

この世における教会の務めは、礼拝から始まります。わたしたちは礼拝において神の前に共に集い、賛美し、聖書の朗読を聴き、献金を献げ、祈り、神の言葉が説教されるのを聴き、洗礼を授け（受け）、主の晩餐を分かち合うことによって、神の民であることがどういうことであるかをもっとも明白に知ることになります。わたしたちはこの

世における神の働きが何にもまして礼拝する会衆によって成し遂げられると信じます。それゆえ、わたしたちの使命 (mission) には、新しい人々を教会の交わりに受け入れることと、新しい礼拝共同体を組織することが含まれます。

礼拝は、神に対するわたしたちの愛の最高の表現です。

礼拝は、神に対するわたしたちの愛の最高の表現です。礼拝は、恵みと憐れみによってわたしたちをあがなってくださった唯一の神を中心としてあがめ、たたえることです。礼拝は神の民が集う各個教会において献げられ、自分中心の体験や自己礼賛ではなく、自分を明け渡して献身することにおいてなされるものです。礼拝は、神を愛する教会がおこなう神への忠実な奉仕です。礼拝は、愛と憐れみによってわたしたちをあがなってくださった神を崇拝する神中心の礼拝でなければなりません。礼拝の本質として大事なことは、各個教会の信徒たちが、自己中心的な態度や自己肯定的な思いではなく、心から自己を明け渡し自分をむなしくして神の御前に集まることです。礼拝は神の愛が満ち、神に従順に従っている教会の姿です。

(b) 共感 (compassion) と伝道の使命

神に選ばれたわたしたちは、失われた人々に神の愛を伝え、貧しくうちひしがれた人々に神の憐れみを分け与えます。主イエスが弟子たちに命じられた戒め (マタ 22 : 36 - 40) と召し (マタ 28 : 19 ~ 20) に従い、わたしたちも世に出て行き、福音を宣べ伝え、神の憐れみと義なる方について、喜びに満ちて伝道します。

わたしたち信仰者の使命は、貧しい人々を助け、不正に対して抵抗し、抑圧されている人々に寄り添い、神の創造されたものを大切に保持し、主の御名を呼び求める人々を仲間として交わることです。この使命をとおして、わたしたちは神の愛を実践していかなければなりません。聖書は、神がキリストによって、わたしたちをご自分と和解させてくださったと教えています。つまり神はキリストによってわたしたちをあがなしてくださったのです (Ⅱ コリ 5 : 16 ~ 21)。わたしたちは宣教と共感と正義を通して、神の愛によるこの和解を世の人々に伝えるために遣わされています。

(c) 弟子としての使命

神はわたしたちにキリストの弟子となること、また世の人々をキリストのもとへ導くことを命じておられます。この命令に従い、わたしたちは教会学校、聖書の学びの会、各種の小さな交わり、聖会や各種集会に参加して、信仰を持つ者同士が励まし合って信仰を深め、お互いが連帯感を持ち、一人ひとりが神と密接な関係にあるよう努力しなけ

ればなりません。キリストの弟子ということは、自分のすべてを献げて神に従い、信仰がもたらすあらゆる鍛錬に耐えることです。わたしたちは互いを認め合い、キリストにある交わりを深め、愛し合い、助け合うことによって、各々が聖なる生活をする事ができると信じます。ジョン・ウェスレーは「神は一人ひとりに、相手を力づけるために手を与えられた」と述べています。

弟子であることは、そのことをとおして聖霊がわたしたちを次第に、キリストにある成熟へと導くための手段です。

弟子になることは生き方そのものです。それは、神がわたしたちにこの世でどんな生き方をお望みであるかを悟る過程だといえます。聖書の御言葉に忠実に従い、神の戒めを守り、互いを思いやる生活をしていくと、やがてわたしたちは、キリストにある真の喜びに満ちた生き方と、キリスト者としての真の自由を理解するようになります。使命に従うとは、規則や法規に従うという人間的な努力だけのことではありません。それは、聖霊がわたしたちを、次第にキリストにある成熟へと導くための手段です。わたしたちはキリストの弟子になることによって、キリストの性質を持つ民とされていきます。弟子であることの究極の目的は、わたしたちが主キリストと同じ姿へと造り変えられていくことです(Ⅱコリ3:18)。

(d) キリスト教高等教育の使命

わたしたちは、キリストに仕える生涯を人々が生きようになるためのキリスト教教育を使命としています。わたしたちが運営する神学校、聖書学校、大学などをおして、わたしたちは知識の探究、キリスト者としての人間形成、神によって与えられた務めを教会において、また世界において成し遂げる指導者を教育することに力を注いでいます。

キリスト教高等教育はナザレン教会が担う使命における中核の一つです。ナザレン教会はその歴史の初期から、高等教育機関を設立して、世界中のウェスレー・ホーリネスの信仰復興運動を指導し、教会や社会におけるリーダーの育成を目指しました。長年にわたって高等教育に力を注いできたことにより、今日では神学校、聖書学校、大学などの世界的ネットワークが形成されています。

わたしたちは、イエス・キリストが主であることを宣言することにおいて、すべての信仰者と一つに結ばれています。

わたしたちの使命

ナザレン教会の使命は、「国々でキリストに倣う弟子を育成する」ことです。

世界規模の信仰共同体として、ナザレン教会は主イエスの大宣教命令（マタ 28：19～20）に従います。すなわち、わたしたちはイエス・キリストによる新生の福音をあらゆる人々に伝えます。わたしたちは、聖書の教える「聖化」（キリストのように生きること）を世界中に伝えます。

ナザレン教会は、礼拝、説教、弟子としての訓練、奉仕をとおして互いの信仰を強めるために、イエス・キリストを自分たちの主と受け入れた人々を一つに結び合わせます。

わたしたちは、自分たちがキリストのように生きると共に、イエス・キリストの^註共感をすべての人々に対して表すために力を注ぎます。

（訳注：compassion はナザレン教会にとってたいへん重要な概念ですが、この語を一言で表現できる日本語がありません。同情、慈愛、憐れみ、手を差し伸べたいという共感に満ちた衝動などが含まれています。ここでは「共感」と訳しますが、「愛と憐れみ」という二語にする方がよいかもしれません）。

教会の第一の使命は神の栄光をたたえることですが、わたしたちは同時に、この世を神と和解させる神の働きに、積極的に加わるためにも召されています。

この使命の表明には、ナザレン教会の宣教に関する歴史的な神髄である伝道、聖化、弟子となること、共感のすべてが含まれています。聖化の神髄は「キリストに倣う」ことです。

ナザレン教会員は「遣わされた民」です。家庭に、職場に、地域社会に、村々や町々に、そして国々に遣わされています。今日では、世界のあらゆる地域から宣教師が派遣されています。

神はいまも、聖霊によって驚くべき働きを実現するために、普通の人々を召しておられます。

さあ、来て喜びの歌を主にささげよう。

救いの岩であるイエス・キリストが主であることを、

高らかに叫ぼう。

わたしたちのナザレン教会の特徴

2013年の世界総会において、監督局はナザレン教会の7つの特徴を明らかにしました。

1. 意味のある礼拝
2. 神学的一致
3. 宣教への情熱
4. 弟子の訓練
5. 教会の成長
6. 人々を変えるリーダーシップ
7. 目的をもった「愛の共感」

これらの表明は、わたしたちの使命である「国々でキリストに倣う弟子を育成すること」や「もっとも大切にすること」(Core Values)である「キリストの教会であること、聖であること、宣教的であること」に取って代わるものではありません。むしろ、わたしたちが信じていることがすべてのナザレン教会の特徴となり、世界中のナザレン教会員によって表されるためのものです。わたしたちが前に進むにあたり、これらの特徴がすべてのナザレン教会員のものとなるよう、すべての教会指導者が力強く教えるよう要請します。これら7つの特徴が世界の教会でどのように実現されるのかについて、探究してゆきましょう。

1. 「意味のある礼拝」(訳注 MeaningfulWorship とは形式化した礼拝でなく、真の礼拝)

礼拝への招き

主に向かって喜び歌おう。救いの岩に向かって喜びの叫びをあげよう。
御前に進み、感謝をささげ、楽の音に合わせて喜びの叫びをあげよう。

主は大いなる神、すべての神を超えて大いなる王。

深い地の底も御手の内にあり、山々の頂も主のもの。

海も主のもの、それを造られたのは主。陸もまた、御手によって形づくられた。

わたしたちを造られた方、主の御前にひざまずこう。共にひれ伏し、伏し拝もう。
主はわたしたちの神、わたしたちは主の民、主に養われる群れ、御手の内にある羊。

—詩95：1～7a

神を礼拝するとは、神が救いの岩であり、偉大な神であり、すべての神々に勝る王であり、すべてのものの創造主であり、ご自分の民を養う大牧者であることを認めることであると、確信を持って表明します。

A. 主イエスの弟子たちは、イエスと共に生活し、この関係に基づいて人々に仕えました。

- ・主イエスは、弟子たちを奉仕のために世に遣わしました（マタ 10）
- ・主イエスはその後、弟子たちに聖霊の満たしが必要であることを語りました。弟子たちが「上の部屋」（訳注：最後の晩餐（ルカ 22：12）やペンテコステの記述）で待っていると、主イエスが約束したとおりに聖霊が与えられました（使2）
- ・弟子たちが世界に対して働きを始めると、彼らは神の使者となりました。
- ・彼らは和解の使命を携えて、和解の福音を伝えました（Ⅱコリ 5：11～21）
- ・このことをパウロは次のように明言しています。「ですから、神がわたしたちを通して勧めておられるので、わたしたちはキリストの使者の務めを果たしています。キリストに代わってお願いします。神と和解させていただきなさい。罪と何のかかわりもない方を、神はわたしたちのために罪となさいました。わたしたちはその方によって神の義を得ることができたのです。」（Ⅱコリ 5：20～21）

B. 主イエスは、ご自身に従う人々に大宣教命令を与えました。

- ・「だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」（マタ 28：19～20）。

初代教会は、アンティオキアで「意味のある礼拝」を体験した後、この大宣教命令を成就するための働きをはじめました。－使徒 13:1-4

C. 「意味のある礼拝」は、断食や祈りなどの霊的訓練をおこなうことによってなされます。

- ・聖霊は、他の人も同じ信仰を持つことができるよう、弟子たちを送り出されました。
- ・これは礼拝を通じてなされました。
- ・礼拝はわたしたちを啓発し、わたしたちの生涯を神の力にあずからせます。
- ・礼拝はわたしたちの生涯をキリストの生涯へと導きます。礼拝は、わたしたちをキリストの聖なる姿へとつくり上げるために神が用いる、なくてはならない霊的訓練です。
- ・わたしたちは個人的礼拝と共同体礼拝の両方を絶えずおこなわなければなりません。

D. 「意味のある礼拝」は、神が神ご自身の仕方であつたわたしたちの間に働かれる余地を、共同体にもたらしめます。

- ・初代の教会は、委員会やセミナーなどによって物事を進めたりはしませんでした。
- ・むしろ、初代の教会は共に礼拝にあずかるためにしばしば集い、神が彼らのうちに自由に働くことを受け入れました。
- ・わたしたちも自分たちの計画に固執することをやめて、神がご自身の計画をわたしたちの間でおこなわれることを受け入れるべきです。
- ・わたしたちは、神がご自身のお決めになる方法と御計画に基づいて、人々を確信させ、動かし、癒し、救い、聖めるために、ご自身を表される時への備えをしておくことが必要です。
- ・礼拝に来るたびに、礼拝において神がわたしたちに出会ってくださり、わたしたちのうちに働いてくださるということを切望するべきです。
- ・わたしたちは礼拝に集う毎に、その集まりにおいて神がわたしたちと出会い、わたしたちの間に働いてくださることを切に願い求めているなければなりません。
- ・わたしたちは、礼拝において神が明らかな仕方、神だけに可能な仕方であられることへの備えをしておかなければなりません。わたしたちは（礼拝を）習慣的な集会のように、日常的な普通のこととして満足してはなりません。
- ・神の霊が力強くわたしたちを捕らえてくださるために、神の子らは毎週集うべきです。
- ・神の聖なる霊によって人の霊が捕らえられる体験は、他の何ものも取って代わることはできません。
- ・それは、共同体の「意味ある礼拝」においてもっとも良く体験されます。

2. 神学的一致

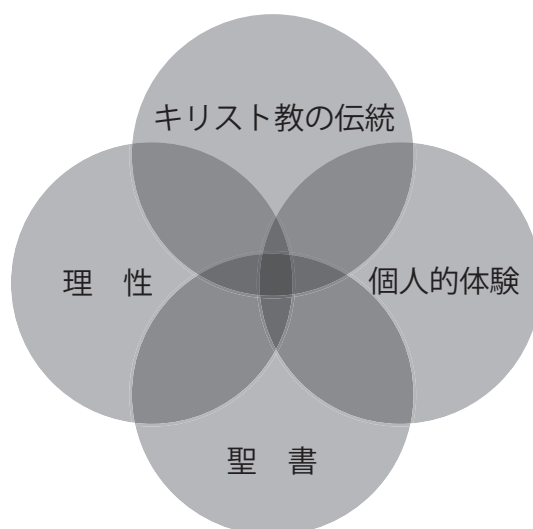
A. わたしたちナザレン教会は、キリストの教会全体に対して語りかける言葉を持っています。

- ・わたしたちは神学的な立場を公にします。
- ・それは、わたしたちが何を承認し、何に基づいて行動し、どのような信仰的生活をするかということです。

B. わたしたちの神学的一致は、以下の四つを源泉としています。

- ・聖書：わたしたちは、聖書がキリストにある者としてのアイデンティティーを形作るための土台であり不可欠のものであると信じます。
- ・キリスト教の伝統：わたしたちは、多様なキリスト教の伝統をとおして、二千年にわたって築かれてきた正統な教えを、喜びをもって受け入れます。

- ・ 理性：わたしたちは、聖霊が知性の内に、知性をとおして働き、精神に洞察力を与えることを信じます。
- ・ 個人的体験：わたしたちは、神がキリストに従う一人ひとりの生涯の内に、また生涯を通して、そしてそれぞれの信仰共同体の内に、また信仰共同体をとおして働くことを信じます。



図版 神学的一致の源泉

C. 以下の信仰的確信がわたしたちを神学的に一致させます。

- ・ わたしたちはキリスト者です。
 - イエス・キリストが神の子であることを信じます。
 - キリストが、三位一体の第二の位格であることを信じます。
 - キリストの教会の正統的信条と伝統を保持します。
- ・ わたしたちは、プロテスタント教会です。
 - わたしたちは信仰による恵みによってのみ義とされ、救われると信じます。
 - 聖書の権威を高く掲げます。
 - わたしたちは万人祭司を信じます。
 - 説教が礼拝体験において中心に位置づけられるべきことを確信し、説教台を聖壇の中心に配置します。
 - わたしたちは霊の賜物がキリストの体であるすべての信仰者に分け与えられていると信じます。
- ・ わたしたちは福音主義教会です。

わたしたちは、罪の赦しとキリストに倣う姿に変えられることを通して、イエス・キリストとの個人的な関係を持つことが可能であり、また必要であると信じます。わたしたちは、生き方が変えられることを通して信仰の証がなされることを信じます。

- ・わたしたちはウェスレー主義に立ちます。

わたしたちは、神の本質的性質が「神は愛です」(Iヨハ4：8)ということにあると信じ、それをすべての神学の土台とします。

わたしたちは神との有意義な関係を保つために、人は自由意志を働かせることを信じます。

わたしたちは、神が恵みと憐れみをもって人に働きかけることを信じます。

わたしたちは、イエス・キリストの救いに先行する神の恵みが、人々をより深く罪に沈むことを防ぎ、神を信じる信仰へと導くことを信じます。

わたしたちは、神が人を捜し求め、あがない、救い、きよめ、十分な恵みを与えることによって、その人を神の子として、キリスト者として勝利の生涯を歩ませてくださると信じます。

わたしたちは恵みによって罪の力から解放され、罪びとが神の子に変えられ、自発的に、愛の心を持って神に従うことができると信じます。

- ・わたしたちは、聖潔と聖化がこの世の生涯において現実的に可能であることを信じます。
- ・わたしたちは、聖霊の証を信じます。

わたしたちは、神によって赦され、イエス・キリストの血が過去の罪を覆い続け、神が日々の勝利を与えてくださることの保証を得ていることを信じます。

わたしたちは日々の生活において、神が聖霊による導きをとおして一人ひとりを導いてくださることを信じます。

D. わたしたちは、聖なる生活には4つの本質的な局面があることを信じます。

- ・**キリストに倣うこと**：わたしたちは自分自身を神の働きのための器とすることにより、聖霊の力によって日々主イエスの似姿に変えられていきます。「そこで、あなたがたに幾らかでも、キリストによる励まし、愛の慰め、“霊”による交わり、それに慈しみや憐れみの心があるなら、同じ思いとなり、同じ愛を抱き、心を合わせ、思いを一つにして、わたしの喜びを満たしてください」(フィリ2：1～2)。
- ・**ライフスタイル**：わたしたちはこの世において神の働きを担うために、世から分たれます。「わたしが願うのは、彼らを世から取り去ることではなく、悪い者から守ってくださることです。わたしが世に属していないように、彼らも世に属していな

いのです。真理によって、彼らを聖なる者としてください。あなたの御言葉は真理です」(ヨハ17:15～17)。

- ・ **誘惑、そして選択の力**：わたしたちは依存症や肉の欲、悪の力に自分を明け渡さず、聖なる生活を送るための力を神から得ます。「心の目を開いてくださるように。そして、神の招きによってどのような希望が与えられているか、聖なる者たちの受け継ぐものがどれほど豊かな栄光に輝いているか悟らせてくださるように。また、わたしたち信仰者に対して絶大な働きをなさる神の力が、どれほど大きなものであるか、悟らせてくださるように。神は、この力をキリストに働かせて、キリストを死者の中から復活させ、天において御自分の右の座に着かせ、…」(エフェ1:18～20)
- ・ **霊の結ぶ実**：完全な神の愛が、わたしたちの内に愛、喜び、平和、寛容、柔和、誠実、節制として表されます。「愛には恐れがない。完全な愛は恐れを締め出します。なぜなら、恐れは罰を伴い、恐れる者には愛が全うされていないからです」(1ヨハ4:18)。

E. わたしたちは「中庸の道」(via media) を信じます。わたしたちは様々な問題や課題に関して、両極端の立場を避けるよう心がけます。可能な限り、両極端の特殊な立場ではなく、バランスの取れた中道を目指します。

3. 宣教への情熱

宣教への情熱は、主イエスの人類に対する恵みと愛に対するわたしたちの応答です。ナザレン教会は宣教への情熱から誕生しました。今でもそれは、わたしたちの教会の中心です。ナザレン教会の初代監督、フィニアス・ブリジーは、宣教への招きで「わたしたちは、自分自身が受けたのと同じ分量の福音を、すべての人に与える責務があります」と宣言しました。わたしたちは、イエス・キリストによる救いを人々が見出すために必要な助力をします。

A. 宣教への情熱の手本は主イエスです。

- ・「また、群衆が飼い主のいない羊のように弱り果て、打ちひしがれているのを見て、深く憐れまれました。そこで、弟子たちに言われた。『収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださるように、収穫の主に願いなさい』」(マタ9:36～38)。
- ・主イエスは言われました。「あなたがたは、『刈り入れまでまだ四ヶ月もある』と言っているではないか。わたしは言うておく。目を上げて畑を見るがよい。色づいて刈り

入りを待っている」(ヨハ4:35)。

B. 宣教への情熱は主イエスによって命じられました。

- ・「それから、イエスは言われた。『全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい』」(マコ16:15)。
- ・主イエスは弟子たちに言われました。「次のように書いてある。『メシアは苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する。また、罪の赦しを得させる悔い改めが、その名によってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる』と。エルサレムから始めて、あなたがたはこれらのことの証人となる」(ルカ24:46～48)。

C. 宣教への情熱は主イエスによって表明されました。

- ・「そして、御国のこの福音はあらゆる民への証として、全世界に宣べ伝えられる。それから、終わりが来る」(マタ24:14)。
- ・「盗人が来るのは、盗んだり、屠ったり、滅ぼしたりするためにほかならない。わたしが来たのは、羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるためである」(ヨハ10:10)。

D. 宣教への情熱は、聖霊によってもたらされます。

- ・聖霊は、聖潔を生き、証言するために、個人と共同体に力を与えます。
- ・「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる」(使1:8)。

E. 宣教への情熱は、聖霊によって生み出されます。

- ・聖霊のいのちがわたしたちの内にあることは明白であり、実を生み出します。
- ・「これに対して、霊の結ぶ実は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制です。これらを禁じる掟はありません。キリスト・イエスのものとなった人たちは、肉を欲情や欲望もろとも十字架につけてしまったのです。わたしたちは、霊の導きに従って生きているなら、霊の導きに従ってまた前進しましょう」(ガラ5:22～25)。

F. 宣教への情熱は、個人と教会に新しいいのちと新しい活力をもたらします。

- ・「だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた」(Ⅱコリ5:17)。

- ・「こうして、主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされたのである」(使2：47)。

G. 宣教への情熱は、主イエスへのわたしたちの従順さの表明です。

- ・わたしたちを変容する福音の力のもっとも明白な証拠のひとつは、パウロの生涯です。
- ・使徒パウロは次のように証しています：「わたしは、ギリシア人にも未開の人にも、知恵のある人にもない人にも、果たすべき責任があります。それで、・・・ぜひ福音を告げ知らせたいのです。わたしは福音を恥としない。福音は、ユダヤ人をはじめ、ギリシア人にも、信じる者すべてに救いをもたらす神の力だからです」(ロマ1：14～16)。

H. キリストへの情熱は、大宣教命令(マタ28：19～20)に参加する第一歩です。訓練と備えがその後続きます。

- ・その結果として、すべての人がイエス・キリストを知るべきです。
- ・その結果として、すべての人が、手段であれ方法であれ才能があるなしにかかわらず、確固たる信念を持ってキリストを証するべきです。

I. 宣教への情熱は、救いの福音を人々に分ち合うよう駆り立てる神の力に寄り頼むようにとわたしたちを招きます。

- ・わたしたちは信仰に立って聖書を学び、人々に神の言葉が何を語っているかを伝えます。
- ・福音の言葉の力は、神との関係を回復する必要があるすべての人、男性にも女性にも、少年にも少女にも魂に語りかけます。
- ・イエスがわたしたちの模範です。「人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである」(ルカ19：10)。「ある日、イエスが神殿の境内で民衆に教え、福音を告げ知らせておられると、」(ルカ20：1)。

J. 宣教への情熱は、キリストをいっそう確かに知りたいという思いに、わたしたちを駆り立てます。

- ・宣教への情熱は、わたしたちが何者であるのか、またわたしたちの生き方を定めます。人生に対する情熱は、宣教に対する情熱より大きくはありません。いのちを選ぶということは、宣教することを選ぶということです。
- ・宣教への情熱は、わたしたちが知っていることを実証します。主イエスに癒やされた盲人は簡潔に証しました。「ただ一つ知っているのは、目の見えなかったわたしが、今は見えるということです」(ヨハ9：25)。

- ・宣教への情熱は、神が与えてくださった特権に対するわたしたちの感謝を確かめます。「ただで受けたのだから、ただで与えなさい」(マタ10:8b)。

K. 宣教への情熱は、わたしたちを弟子づくりへと促します。

- ・わたしたちは生涯の旅全体をと通して、知っている人にも知らない人にも、わたしたちの信仰の歩みを分ち合うことによって、彼らの生涯に影響を与えようと努めます。
- ・すべてのキリストの弟子は、日常会話においても信仰の証が溢れ出るほどに情熱的であるべきです。

L. 宣教への情熱は、わたしたちを創造的にさせます。

- ・手段：例として、ジーザス・フィルム、伝道ボール、伝道キューブなど。
- ・方法：多くの方法、一つの使信。
- ・戦略：大衆伝道、友人関係、個人伝道、スモール・グループ、都市伝道、その他。

わたしたちは、自分自身が受けたのと同じ分量の福音を、すべての人に与える責務があります。 —フィニアス・ブリジー

4. 弟子の訓練

A. イエス・キリストは教会に、弟子を作るようにと明確に命じました。

- ・「だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」(マタ28:19~20)。
- ・教会にはキリストに倣う弟子を作るための明確な方法があります。
- ・キリストに倣う弟子とは、キリストに留まり、キリストらしさへと成長し、キリストがなさることをする人のことです。自分を否定し、心と精神と思いと力を尽くして神を愛し従います(マコ12:30、ヨハ15、ルカ9)。
- ・人との関係性を意識する弟子は、他者が忠実で親密なイエス・キリストとの関係を築く助けとなります。こうした関係性をとおして、キリストの魂が彼らの性格をキリストに倣うものに変え、新たに信仰を持つ人の価値観を神の国の価値観に変え、家庭や教会や世界において、他者に働きかけるという神のご計画にあずかる者となります。

B. 一人ひとりがイエス・キリストと個人的な関係を築くよう導くことから始めます。

- ・ 信仰の旅は、罪の告白とキリストを信頼することによる赦しの恵みから始まります。
- ・ キリストにおいて新しくされた者は生まれ変わり、神の家族となります。
- ・ 新たにされた者は精神と生活が変えられ、知り合いに神の恵みを証するようになります。
- ・ わたしたちは新しい信仰者に対して直ちに、彼らが救われたのは自分自身だけのためではなく、キリストにつながるよう彼らがこれから影響を与え導く人たちのためであるという根本的なことを教えます。彼らは弟子を育てる者となり、その育てられた弟子もまた弟子を育てる者になります。
- ・ 弟子であることは、他者がいっそうイエス・キリストに親密に従うことを手助けすることでもあります。

人との関係性を意識する弟子は、他者が忠実で親密なイエス・キリストとの関係を築く助けとなります。こうした関係性を通して、キリストの魂が彼らの性格をキリストに倣うものに変え、新たに信仰を持つ人の価値観を神の国の価値観に変え、家庭や教会や世界において、他者に働きかけるという神のご計画にあずかる者となります。

C. 力強い説教が、キリストに倣う弟子を意識的に育てます。

- ・ 牧師はキリストへの信仰がどのように成長するかを教え導く説教をします。
- ・ 牧師は聖書に根ざした説教をおこない、その説教をとおして信仰の成長と、聖書へのさらなる飢え渴きをもたらします。
- ・ 牧師はあらゆる弟子作りを神の言葉に基づかせます。
- ・ 牧師はどのように聖書を学ぶか、どのように神の言葉の意味について考えるべきか、それを生活にどう適応させるかについて信徒に教えます。
- ・ 牧師は一年をとおして説教によりバランスの取れた御言葉の糧を与える努力を惜しみません。
- ・ 牧師は、会衆全体がバランスよくキリストに倣う弟子として整えられることについて、聖霊に信頼をおきます。
- ・ イエス・キリストは群衆に説教をすると同時に、小さな弟子の群れを注意深く教え導きました。
- ・ イエス・キリストは説教をする際、聴衆が学ぶ助けとなるたとえ（物語）を常に用いました。（マコ4：34）

D. わたしたちはキリストに倣う弟子を育てるために教会学校を活用します。

- ・教会学校の教師は、御言葉の学びと御言葉の生活への適応を教えて、キリストに倣う弟子を作ることを目指します。
- ・教会学校の教師は、若い信徒に対して教室の中においてだけでなく、生徒そのものに心向け、キリスト者としての信仰に関する疑問に答え、神の恵みの中で成長するよう励まします。
- ・わたしたちの教会学校制度は、幼児から高齢者までを対象とする教育プログラムを提供します。聖書全体を系統立てて学ぶことを視野に入れた教材を提供しています。「若者を歩むべき道の初めに教育せよ。年老いてもそこからそれることがないであろう」(箴言 22:6)。

E. わたしたちは聖書研究のための小グループの形成を進めます。

- ・聖書研究のための小グループは、新しい信徒や信仰を持ち始めている人に対して、グループ全体で、また一対一で責任を担います。
- ・小グループにおいて築かれる良い人間関係は、定期的な集会を超えて人生における友人関係へと発展します。
- ・これらの聖書研究グループには、聖書研究と社会的関係の両方が含まれます。社会的関係は、恵みの中で成長していくうえで必要不可欠なものです。
- ・小規模な弟子育成グループは、日曜日だけでなく、生涯にわたる支援関係へと発展します。

F. わたしたちは、よく準備された教会の行事をとおして、キリストに倣う弟子の霊的成長を促します。

- ・聖書クイズのプログラム
- ・子どものための伝道イベント
- ・長期の休みを利用した聖書学校
- ・クリスマスやイースターの伝道計画
- ・援助活動 (Compassionate ministry) による宣教
- ・他者への弟子訓練による宣教
- ・イエス・キリストとキリスト教会へとつながる助けとしての、男性、女性、お年寄り、独身者、障がい者、スポーツチーム、その他さまざまな集まりの推奨

G. わたしたちは個人の信仰を成長させるのに利用できるあらゆる手段を用いることを推奨します。

- ・解説付きの聖書を読むこと、聖書朗読の録音を聞くこと
- ・毎日祈ること
- ・キリスト教音楽を聴くこと
- ・キリスト教文学を読むこと
- ・キリストに倣う者となることを互いに祈り合うパートナーを見つけること
- ・厳しい質問をしてくれるほどにあなたを愛してくれるパートナーを見つけること
- ・神が自分の生涯に何をしてくださったかを常に人々に語る習慣を育むこと

H. わたしたちは神の臨在を日々求める習慣を身に付けることを推奨します。

- ・キリスト者の生涯は、主であり救い主であるイエス・キリストとの親しい個人的な交わりに他なりません。
- ・キリストと共に過ごす時を持つことによってキリストの似姿にいつそ近づくことが、自覚的な弟子として成長する最善の道です。
- ・それゆえ、わたしたちは日々キリストの声を聞き、キリストの御言葉を日々の糧とし、キリストの臨在を日々楽しみます。
- ・キリストに倣う弟子は意識的にキリストを求め、触れあう人々にいつでもキリストのことを分かち合う備えをします。

祈り、神の言葉、そしてよりイエスに倣おうと互いに隣人同士が愛し合うのであれば、それは教会の中における弟子の訓練に大きく貢献します。

I. わたしたちは弟子が意識的に弟子を作るよう励まします。

- ・主はわたしたちに弟子を作る務めと権限をお与えになりました（マタ28：19～20）。
- ・わたしたちは信仰の先輩に、わたしたちを訓練し、あるいは霊的指導者となってくれるよう、祈りつつ願い求めます。
- ・わたしたちは弟子訓練のための小グループになってもらうため、祈りつつ少人数の信仰者を集めます。
- ・わたしたちはこの弟子グループに自らを委ねて、共に主イエスを探究します。
- ・小グループでの物語を中心とする聖書の学び方をおして、弟子たちが聖書を学び、その使信を周囲の人々に伝えるための確固たる基礎が築かれます。
- ・祈り、神の言葉、そしてイエスに倣おうと互いに隣人同士が愛し合うのであれば、それは教会の中における弟子の訓練に大きく貢献します。

5. 教会の成長

A. キリストの教会は、イエス・キリストが最初の信仰共同体を作った時から始まりました。

- ・この信仰共同体は神を礼拝するために常に共に集いました。
- ・そしてパウロとバルナバの最初の宣教旅行によって、この信仰共同体は成長し発展してゆき、新しい教会として広がってゆきました（使 13～14）。

B. パウロは教会を建てるために2回目の宣教旅行へと出発しましたが、聖霊が別の方向へと導きました（使 16）。

- ・わたしたちも常に、神がご自分の働きのために示される新たな幻に心を開き、聖霊によって導かれるのでなければなりません。
- ・パウロは幻を見ました。それは人々や教会のアンケート調査によってもたらされたのではなく、神の御心から出たものでした。わたしたちの新しい教会を建てようとする幻も、同様に神の御心から来るものでなければなりません。
- ・パウロはある男の幻を見ました。それは青写真や戦略、スローガン、行程表、計画書などが作り出す幻ではありませんでした。パウロは失われた人間に焦点を当てた幻を見たのです。新しい教会を建てようとするわたしたちの計画も、イエス・キリストとの関係を必要とする失われた人々に焦点を当てるのでなければなりません。
- ・パウロはマケドニア人の幻を見ました。この人は、特定の場所の、固有の文化、言語、歴史を持つ人でした。神はわたしたちにも特定の人たちのグループや共同体に対する幻をお与えになります。わたしたちは、わたしたちに対する神の幻を見出し、それに従うことが必要です。
- ・パウロはマケドニア人が立っている幻を見ました。この人はパウロより劣っていたわけではありません。わたしたちは目と目を合わせて互いに向き合います。わたしたちが福音を伝える相手は、わたしたちが尊敬すべき相手です。
- ・パウロはマケドニア人が立って、「ここに来て、わたしたちを助けてください」と叫ぶ幻を見ました。これは、わたしたちを突き動かす幻です。わたしたちは街へ、近所へ、自分の家族や親類へと出ていくべきです。

わたしたちはイエス・キリストをこの世界に示す務めがあります。

C. 神がパウロに示された、教会を発展させるご自身の計画には、神が継続的に主導権を発揮することも含まれていました。

- ・マケドニア人（男性）の幻は、実際には女性でした。フィリピのリディアが、この宣教の機会に対してもっとも熱心に応えました。
- ・川のほとりで祈っている女性たちが、もっとも熱心にパウロの言葉に耳を傾けました。
- ・パウロはこれまでのようにユダヤ教の会堂を使って教会を始めるのではなく、家の教会を始めるようになりました。
- ・高価な紫布の商人であったリディアは、この家の教会を導きました。
- ・過去に実績を上げた従来の方策とは異なる方法が、教会成長を促すことがあります。

D. 教会を建てることは大きな犠牲を伴います。

- ・パウロとシラスは宣教の働きをしたために牢に入れられました。彼らは自分を犠牲にすることを厭いませんでした。彼らは神のために苦難を負っている最中に、神をたたえる賛美を歌いました（使 16：25）。
- ・今日、教会の指導者とイエス・キリストに従う者は、教会を始めるために同様の犠牲を払います。教会を始めるには、長い期間にわたる祈りと涙、労苦、努力、資金、そして時には血を流すことが求められます。
- ・パウロとシラスが受けた困難にもかかわらず、フィリピでは獄吏を新たな牧者とする新しい家の教会が生み出されました。

E. わたしたちは、いかなる状況においても聖霊の内住を実感するために、神を前に置く生き方をしなければなりません。

- ・パウロとシラスは、鞭に打たれ牢に入れられた夜のことを、個人的な損失とは考えませんでした。むしろ、そのような悪い状況にも関わらず、彼らは神の霊が勝利を与えていることを感じていました。
- ・パウロとシラスは神の霊によって導かれていることを確信しました。彼らは神が自分たちに配慮してくださることを知っていました。
- ・フィリピの牢獄を襲った地震は、神が今もこのような状況の中で関与してくださることを教えてくれます（使 16：25～26）。わたしたちの宣教の働きがいかに困難でも、神はわたしたちをお忘れになることはありません。
- ・わたしたちが主に従い、その意志をおこなうなら、神はもっともふさわしい時に、その偉大な力で介入してくださいます。たとえ悪が神の国の進展を妨げようとしても、最後の決定権は神にあります。
- ・わたしたちは自分たちだけで神の国をつくることも進展させることもしません。神ご

自身が神の国をつくられるのです。

F. 教会成長の方策は教会の歴史をとおして変化してきました。

- ・教会の歴史の中で最初の二百年間、キリストの教会は建物を建てませんでした。
- ・教会堂、資産、専従牧師といった考えは、もっと後になってから出て来たことです。
- ・聖霊は今日、新しい方法で教会を生み出しつつあります。
- ・それぞれの教会は、子教会を生み出すことが推奨されています。
- ・こうした子教会は、家庭や他の利用可能な場所で集まります。
- ・各牧師は、牧師養成の課程にある、別の職業にも従事している牧師を導きます。
- ・この方法なら、子教会を始めるための資金集めはいりません。一般の信徒が神の召しに応えて、新しい教会を始める手助けをすることができます。
- ・この方法なら、神の教会を世界中の新たな場所に建てる神の働きを担うことができます。神が必要とされるのは、幻を受け入れる心と、召しに応えること、そして神の導きに従うことだけです。

ナザレン教会は、教会を次のように定義します。：霊的な養いと礼拝のため、または教えのために、指定された時間と場所において、定められた指導者のもと、説教がなされ、ナザレン教会の宣教の働きがおこなわれているなら、ナザレン教会はその集會を教会と認めて、部会および世界教会の統計（監督局）に報告します。言い換えると、教会とは信仰者の群れであり、建物や資産ではありません。

G. 教会が成長する目的は、イエス・キリストをまだ知らない人々がイエス・キリストに出会うためです。

- ・主イエスはこう言われました。「ほかの町にも神の国の福音を告げ知らせなければならぬ。わたしはそのために遣わされたのだ」（ルカ 4：43）。
- ・わたしたちは、教会の成長のためにわたしたちの生涯を聖別してくださった神による、神の国の大使です。
- ・わたしたちの努力は組織を維持するためのものではありません。
- ・わたしたちは、イエス・キリストによる救いをできる限り多くの人々に知ってもらいたいと願います。
- ・そして、わたしたちはそれらの新しい信仰者がキリストの似姿になることを願っています。

- ・主イエスはこう言われました。「わたしは言うておく。目を上げて畑を見るがよい。色づいて刈り入れを待っている」(ヨハ4：35)。

6. 人々を変えるリーダーシップ

A. わたしたちはキリストの似姿という模範によって指導者を育てます。主イエスがわたしたちの手本です。

キリストに倣う指導者が、人々を変容させる指導者です。

B. 人々を変える指導者は従順であり謙虚です。

- ・彼らは、御父の意志に服従したイエス・キリストに倣います(フィリ2：5～8)。
- ・彼らは、神が彼らの祈りに応え、必要をすべて満たしてくださると心から信頼します(ヨハ15：7)。
- ・彼らは、他の人々の権威を受け入れ、自分をより低い者とみなします(エフェ5：21)。

C. 人々を変える指導者は仕える者です。

- ・彼らは、仕えられるためではなく仕えるために世に来られたイエス・キリストの模範に倣います(マコ10：45、マタ20：28)。
- ・彼らは仕える者としての精神と態度をもって導きます(フィリ2)。

D. 人々を変える指導者は幻を見ます。

- ・「幻がなければ民は堕落する」(箴29：18)。
- ・「主はわたしに答えて、言われた。『幻を書き記せ。走りながらでも読めるように板の上にはっきりと記せ』」(ハバ2：2)。
- ・主イエスは神の国の幻を描写してみせました。わたしたちも同じく、誰でもはっきりと理解できるようにすべきです。
- ・この特質が、一般の信仰者と指導者を区別する要因です。幻を抱く指導者は、神が教会と共同体のために示す幻を見出し、その幻を人々に描いて見せます。

E. 人々を変える指導者は戦略的にものごとを考えます。

- ・彼らは、幻を神の国を作る手段として自らの共同体のために解釈することができます。
- ・イサカルの子どもたちがそうであったように、人々を変える指導者は時代の状況を理

解し、聖書的な答えを見出します（代上12：32）。

- ・彼らは神の国へと勝ち取らねばならない魂に思いを寄せます。
- ・彼らは幻を行動に移し、信仰者を収穫の地へと向かわせます。
- ・彼らは、幻と使命を簡単かつ効果的な御国の計画に移すことができます（ルカ14：28～30）。

F. 人々を変える指導者はチームを建て上げます。

- ・イエス・キリストがわたしたちの手本です。主イエスはご自身だけで宣教活動をすべておこなうのではなく、チームを作り、権限を与えられました（マタ10）。
- ・主イエスの弟子は普通の人たちでしたが、彼らが世界を根本から変えました（使17：6）。
- ・人々を変える指導者はチームを作ることによって、教会にいるすべての人を神の国を作る作業に関わらせます。

G. 人々を変える指導者は憐れみ深く、決断力があります。

- ・イエス・キリストが弟子を伝道のために遣わした時、彼らにこのように告げました。「蛇のように賢く、鳩のように素直になりなさい」（マタ10：16）。
- ・人々を変える指導者は聖化に基づいて、恵みと掟、正義と憐れみのバランスをどのようにとるかを知らなければなりません。
- ・彼らは賢明な判断をし、その判断を適切に保つ者でなければなりません。
- ・しかし、その判断は共感によってやわらげられるべきです。
- ・彼らは愛に根ざして真理を語るべきです（エフェ4：15）。

H. 人々を変える指導者はものごとを明確に伝えます。

- ・初期の宣教活動において、主イエスはしばしば、「耳のある者は聞きなさい」と言われました（マタ13：43）。主イエスは従う者に、常にうむことなく聞き続けることを求めました。
- ・人々を変える指導者は、イエス・キリストと同じ明瞭さと正確さで話すよう努めるべきです。
- ・人々を変える指導者は、明瞭で、一貫性があり、説得力があることが重要であることを知っています。「ラッパがはっきりした音を出さなければ、だれが戦いの準備をしますか」（Iコリ14：8）。

I. 人々を変える指導者は、御国のための次世代の指導者を育てるために、人々を力づけます。

- ・ヨシュアの指導方法では、次世代の指導者を育てることができませんでした。彼は自

分の世代の人々を導いて終わりました（士2：10）。

- ・人々を変える指導者は自分の安定のために帝国を築いたりしません。彼らは現在と次世代の両方を育てます。
- ・彼らは、神の国のための指導者を備えさせ、強め、送り出すために、訓練と霊的教導者の養成を明確にします。
- ・指導者の継承がなければ、教会を導くことは成功しません。「そして、多くの証人の前でわたしから聞いたことを、ほかの人々にも教えることのできる忠実な人たちにゆだねなさい」（Ⅱテモ2：2）。

7. 目的をもった共感（compassion）

A. 目的をもった共感とは、神の慈愛の心を表します。

- ・神が御子を世にお遣わしになり、主イエスが人のために死なれたことは、神の愛と共感の究極の贈り物です。
- ・ヨハネによる福音書3章16～17節は、神はわたしたちが永遠の命を得るために、溢れるばかりの愛によって御子をお与えになったと証言しています。同様に、ヨハネの第一の手紙3章16～17節には、信仰者が神の創造物に対して心からの共感を抱いて行動することが、人に対する神の愛の現れであると書かれています。
- ・主イエスの生涯と宣教、死、そして復活は、神が他者のため世界のために愛によって動かされたことの具体的な表現です。

B. 目的をもった共感とは常に主イエスの名においておこなわれます。

- ・主イエスはわたしたちの共感の模範です。福音書は、イエスがご自身のもっとも深い部分で人々のために「苦しまれ」たことを証言しています。
- ・主イエスは特に貧しい人、失われた人、病人、疎外された人、弱い立場の人に対して、愛と配慮に満ちた共感によって動かされました。
- ・全き神にして全き人である主イエスは、わたしたちがどう生き、どう愛するべきかの模範です。

わたしたちはあらゆる奉仕、施し、憐れみを、主イエスの名においておこない、主イエスの愛を示すための働きをします。

C. 目的をもった共感とは一人ひとりの尊厳を尊重します。

- ・神の民は、一人ひとりを神の創造物として尊重する仕方で、主イエスの名において希

望と愛と助けを与えます。

- ・共感することには、キリストにある神の愛を広げる以外の動機はありません。

D. 目的をもった共感とは、変容された信仰者から自然と流れてくるものです。

- ・教会は、神ご自身の愛と世に対する共感を具現化するために召されています。
- ・共感の行為は人間の努力や社会行動だけでは決して完成されません。
- ・キリストの体として、わたしたちに与えられた共感することへの召しは、イエスの生涯と聖霊の導きによって形成される総体的な仕方で、生のあらゆる領域に関わります。
- ・聖霊は信仰者の心を変えて、この世を物理的、社会的、霊的に変容する働きをさせます。
- ・共感はずべての会衆の生涯と働きにおいて総合的かつ活発なものです。

E. 目的をもった共感とは、ウェスレー主義において総体的な宣教を定義するものです。

- ・わたしたちは主を愛し主に仕えるために、天の父によって遣わされ、聖霊によって強められて世界に出て行きます。
- ・わたしたちは、一人ひとりの生涯において天の父が聖霊の力によってすでに働かれていること、そしてこの幸いな働きに寄り添うようにと召されていることを信じます。
- ・真の福音伝道は周囲の人々の人生に関わる召しと献身をもたらします。
- ・主イエスの名において、わたしたちは苦しむ者や打ちひしがれた者に寄り添い、癒しと希望、平和と愛を、必要のある人、虐げられている人、弱い立場に置かれている人にもたらそうとします。
- ・わたしたちが互いに導かれている愛に根ざした友愛と共同体は、社会的に影響をもたらします。このこともまた、神がキリストの体を建て、広げる手段です。

F. 目的をもった共感とは、破綻した世界を救うための神の働きに対する、わたしたちの献身の表れとして、わたしたちの命から溢れ出るものです。

- ・わたしたちは、神がなされたのと同じ仕方で、弱り傷ついた人を探し、耳を傾け、応答しようとしています。
- ・わたしたちは入手可能なあらゆる手立てを用いて人の苦しみを和らげようと努め、この世において、この世のために神がなさろうとする回復、統合、救済、平和を追求します。
- ・わたしたちはさらに、この世において人々を抑圧する不正義の仕組みと構造悪を作り出す社会の構造を修復しようと努力し、それを主イエスの名においておこないます。
- ・わたしたちは主の使命が成就し、神に栄光がもたらされるためにあらゆることをなそうと努めます（ミカ6：8）。

わたしたちのウェスレー神学

変容する恵みの奇跡

「恵みは、わたしたちのすべての罪より偉大です」。なんとすばらしい宣言でしょう。

しかも、これは賛美歌の最初の一行にすぎないのです。

(“The Miracle of Transforming Grace” は The Reflecting God Study Bible からの抜粋。出版社の承諾済み。)

主イエスの内に神は人となり、世を御自分と和解させるための決定的な働きを成し遂げられました(ヨハ3:15~16)。わたしたちがまだ罪びとであった時に、神はわたしたちのために贖罪のささげものとして御子をお与えになりました(ロマ3:25)。すべての造られたものの主が世の罪を自ら背負われ、わたしたちすべてに救いを与えてくださいました。

イエス・キリストをとおして、神の義——神の救い——が示されました(ロマ3:21)。このことなしには、全人類は絶望的に神から疎外されたままでした(エフェ1:5~2:15)。しかし、わたしたちを神から引き離すあらゆる力は打ち破られました(コロ2:15)。いまでは、イエス・キリストを信じることにより(ロマ3:22)、わたしたちは解放されたのです(ロマ8:2)。

新約聖書は、わたしたちに対して豊かさを惜しまず与えてくださる神への、途切れることのない賛美を表明しています(エフェ1:6~10)。キリストの内には、満ちあふれる神性が、余すところなく、見える形をとって宿っており、キリストを受け入れるものは、キリストにおいて満たされているのです(コロ2:8~15)。

神の恵みがどれほど奥深いかを悟ったパウロは、「ああ、神の富と知恵と知識のなんと深いことか」と叫びました(ロマ11:33)。罪の赦し、聖霊の内在、キリストの像へと造られること、永遠の生命、神と共にある平和、聖化、教会の交わり、そして主の再臨の希望などは、その豊かさの一部です。

主イエスが語られたとき多くの人々は、神が無償で罪びとと御自分を和解させられたこと、すなわち「良い知らせ(福音)」を聴きました。嫌われていた取税人や姦通で捕らえられた女が神の愛を聴き、悔い改め、罪が赦され、永遠の生命が与えられたのです。自分には神に認められるべきものが何もないと認める人に、神はご自身を無償で与えてくださいます(ルカ15)。

そのことにわたしたちが気づくはるか以前から、聖霊は働いてくださり、わたしたちを救いへと導こうとしておられます。詩編の詩人は、神の声が聴くことのできない所はないと語っています（詩19：3）。パウロは、造られたすべてのものは刻々、キリストによって支えられていると語っています（コロ1：15～17）。ヨハネは、キリストがすべての人を照らすと宣言しています（ヨハ1：9）。

神の創造性と忠実さに基づいて、聖霊は個人と社会の歴史に働きかけ、福音への道を拓いてくださいます。福音がまだ明確に宣べ伝えられる以前から、神は先立って働いてくださり、人々が福音を、願えば受け入れる仕方で聴いてくれるよう、備えをしてくださいます。

すべてのキリスト者は、聖霊がどのようにして彼らにキリストのあがないをもたらして下さったかを、後からたどることができます。わたしたちは神の恵みが持つ、そのような備えとしての側面を、「先行する恵み」、あるいは先立つ恵みとして言い表します。

神はわたしたちの側にいてくださいます。神が御子をとおして成就して下さったすべてのことを、神は聖霊をとおしてわたしたちに与えてくださっています。実に、すべての被造物は父なる神が御子をとおして成し遂げた救いの恩恵に与っているのです（ロマ8：19～25）。

義認とは、神が罪びとを赦し、御自分と和解させてくださる恵み深い行為に対して、わたしたちが名付けた名称です。義認、すなわち神の好意に立ち帰らされることは、信仰による恵みによってのみです。

義認は神の救いの働きの一つの局面です。第二の恩恵は、悔い改めた罪びとが神の生命を確かにするために、文字どおり神の霊が内に宿ることです。その人は神の霊によって新しく生まれ、再生されたのです。新約聖書はこの新しい霊的な生命のことを、新しい創造、新しい誕生、上からの誕生、永遠の生命、神の国に入ること、新しい命に生きること、霊に生きることなど、さまざまな言葉で言い表しています。

どのような言葉で表現するにせよ、聖なる恵みの奇跡によって聖霊が文字どおりキリスト者の内に宿り、変容をもたらします。かつては死が現実でしたが、今は命が現実です。戦いがあったところに神との平和があり、絶望のあったところに希望があります。新約聖書は、「キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。これらはすべて神から出ることであって」と告げています（Ⅱコリ5：17～18a）。

新約聖書は、キリスト者が「キリストの内に」あり、キリストが彼らの内におられると語っています。キリスト者は信仰によって、悔い改めた罪びとを父なる神と和解させてくださる「キリストにある」（ロマ8：1）ので、いまや神と和解させられています。

しかし新約聖書はまた、わたしたちの内におられるキリストを「栄光の希望」と呼んでいます（コロ1：27）。聖霊をとおして復活のキリストは彼の生命——ご自身——を、御自分の民にあずからせます。キリストはわたしたちの内に宿り、聖霊の実を内に育んでくださいます（ガラ5：22～23）。

「しかし、実際どのような霊的な生活がキリスト者として期待できるのですか」と多くの人は問うことでしょう。「罪深い古い習慣の力が、わたしの生き方をあいかわらず定めてしまうのではないか、それとも、神の霊はもっと良い生き方を与えてくれるのだろうか」。こうした問いに新約聖書は、はっきりと答えています。「あなた方の内におられる方は、世にいる者より強いからです」（Iヨハ4：4）。

キリストを死からよみがえらせたのと同じ力、キリストを死と地獄、罪と墓に対する勝利者となさった力が、いまや聖霊によりわたしたちに働いてくださっています（エフェ1：19）。かつては罪と死の古い法則が支配していました。しかし、いまや「キリスト・イエスによって命をもたらす霊の法則が、罪と死との法則からあなたを解放した」のです（ロマ8：2）。

すべてのキリスト者に対する喜びの規範とは、聖霊に満たされて、もはや肉に従って生きるのではなく、霊によって生きるということです（ロマ8：1～8）。あなたは、神の変容する恵みの奇跡を体験したでしょうか。



わたしたちの信仰簡条

前文

わたしたちは、神が与えてくださった大切な相続財産、すなわち、かつて聖徒たちに伝えられた信仰、特に第二の恵みのみわざとしての全き聖化の教理と体験を受け継ぎ、また、神の国を進展させるために イエス・キリストの教会に属する他の諸教会と効果的に協力することができるために、わたしたちナザレン教会の教職と信徒は、わたしたちの内に確立されている教会規則の原則に従って、ここにナザレン教会の基本法、すなわち教会憲法として、信仰簡条、キリスト者としての在り方の契約、教会組織と教会行政の条項を制定し、採択し、公布します。

1. 三位一体の神

わたしたちは唯一であり、永遠に存在し、無限である神を信じます。神は万物の創造主にして保持者です。この方のみが神であり、その性質、属性、目的において聖なる方です。聖なる光であり聖なる愛である神はその本質的存在において三位一体であり、父、子、聖霊として啓示されることを信じます。

【創1、レビ19：2、申6：4～5、イザ5：16、6：1～7、40：18～31、マタ3：16～17、28：19～20、ヨハ14：6～27、Iコリ8：6、IIコリ13：14、ガラ4：4～6、エフェ2：13～18、Iヨハ1：5、4：8】

2. イエス・キリスト

わたしたちは三位一体の第二位格であるイエス・キリストを信じます。キリストは永遠に父と一つであること、聖霊によって受肉し、処女マリアより生まれたことを信じます。それゆえキリストは完全な二つの性質、すなわち神性と人性が一人の位格に結合された真の神であり、真の人にして真の神であることを信じます。

わたしたちはイエス・キリストがわたしたちすべての罪のために死に、死人の中からよみがえり、完全な人性に属するすべてのものを備えた肉体をとり、天に昇り、天においてわたしたちのために今もとりなしておられることを信じます。

【マタ1：20～25、16：15～16、ルカ1：26～35、ヨハ1：1～18、使2：22～36、ロマ8：3、32～34、ガラ4：4～5、フィリ2：5～11、コロ1：12～22、Iテモ6：14～16、ヘブ1：1～5、7：22～28、9：24～28、Iヨハ1：1～3、4：2～3、15】

3. 聖霊

わたしたちは三位一体の第三位格である聖霊を信じます。聖霊はキリストの教会の内に、教

会と共に常にあり、力強く働きます。聖霊は世の人々に罪を自覚させ、悔い改めて信じる者を生まれ変わらせます。聖霊は信じる者をきよめ、イエスにあるすべての真理へと導くことを信じます。

【ヨハ7：39、14：15～18、26、16：7～15、使2：33、15：8～9、ロマ8：1～27、ガラ3：1～14、4：6、エフェ3：14～21、1テサ4：7～8、2テサ2：13、1ペト1：2、1ヨハ3：24、4：13】

4. 聖書

わたしたちは聖書の^神十全靈感を信じます。それは、旧新約聖書66巻は神の靈感によって与えられ、わたしたちの救いに必要なすべてのことについて、わたしたちに対する神の意志を誤りなく啓示しているという意味です。それゆえ、聖書に含まれていないことは、いかなることであれ信仰箇条に加えられてはなりません。

【ルカ24：44～47、ヨハ10：35、1コリ15：3～4、2テモ3：15～17、1ペト1：10～12、2ペト1：20～21】

訳注：「十全靈感」はここに説明されているとおりであり、これが最初からナザレン教会の聖書理解です。それに対して聖書の無謬性を強調する「逐語靈感説」は、聖書の記述はすべて歴史的にも科学的にも誤りがないとする神学的主張です。

5. 罪、原罪と個人的な罪

わたしたちは罪が最初の両親の不従順によってこの世にもたらされたこと、そして罪によって死がもたされたことを信じます。わたしたちは罪には二つの種類、つまり原罪もしくは腐敗性と、実際的もしくは個人の罪があることを信じます。

5.1 わたしたちは、原罪もしくは腐敗性とはすべてのアダムの子孫の性質の墮落であり、最初の両親が創造された時の状態である原義、もしくは純潔な状態から遠く離れ、神にそむき、霊的な命を持たず、常に悪に傾く状態にあることを信じます。わたしたちはまた、再生による新しい命と共に原罪が存在し、聖霊のバプテスマによってまったくきよめられるまで存在することを信じます。

5.2 わたしたちは原罪が、受け継がれた実際の罪への性癖のゆえに犯す罪、したがって神が与えてくださる治癒が疎かにされたり否定されるのでないかぎり個人の責任が問われない罪とは異なることを信じます。

5.3 わたしたちは、実際の個人的な罪とは、倫理的な責任のある人によって知られている神の法が自発的に破られることであると信じます。したがって、それは自発的ではなく避けるこ

とのできない欠点、弱点、過ち、過失、失敗、または墮罪の残余から生じる完全な振る舞いからの逸脱などと混同してはなりません。しかしながら、このような罪と区別される行為の中に、キリストの霊に反する態度や振る舞いは含まれるべきではありません。それらはむしろ霊的な罪だからです。わたしたちは、罪とはおもに、そして本質的に、愛の律法に対する違反であり、キリストとの関係で言えば不信仰と定義されることであると信じます。

【原罪：創 3、6：5、ヨブ 15：14、詩 51：5、エレ 17：9～10、マコ 7：21～23、ロマ 1：18～25、5：12～14、7：1～8：9、1コリ 3：1～4、ガラ 5：16～25、1ヨハ 1：7～8】

【個人的な罪：マタ 22：36～40（及び1ヨハ 3：4）、ヨハ 8：34～36、16：8～9、ロマ 3：23、6：15～23、8：18～24、14：23、1ヨハ 1：9～2：4、3：7～10】

6. あがない

わたしたちはイエス・キリストがその苦難と自らの血を流されたことによって、また十字架の上における死によって、すべての人の罪のために完全なあがないを成し遂げられたこと、このあがないだけが救いの唯一の根拠であって、アダムの子孫であるすべての個々人に十分であることを信じます。このあがないは、道徳的な責任能力のない者、無垢な幼児に対しては恵みにより有効です。しかし責任能力のある年齢に達した者については悔い改めて信じることによって有効となります。

【イザ 53：5～6、11、マコ 10：45、ルカ 24：46～48、ヨハ 1：29、3：14～17、使 4：10～12、ロマ 3：21～26、4：17～25、5：6～21、1コリ 6：20、11コリ 5：14～21、ガラ 1：3～4、3：13～14、コロ 1：19～23、1テモ 2：3～6、テト 2：11～14、ヘブ 2：9、9：11～14、13：12、1ペト 1：18～21、2：19～25、1ヨハ 2：1～2】

7. 先行する恵み

わたしたちはすべての人が神のかたちに似せて創造されされたことの内には、善悪を選ぶ能力が含まれていること、したがって人類は道徳的に責任があること、アダムの墮罪により人類は墮落し、それゆえに自分の自然な強さによって信仰と神に立ち帰る働きができないことを信じます。しかし、わたしたちは、神の恵みがイエス・キリストをとおしてすべての人に無償で与えられ、罪から義へと向き直りたいという願いを可能にし、罪の赦しときよめのためにイエス・キリストを信じ、いと高き神の目に受け入れられ喜ばれる善い働きをすることができるようになることを信じます。

わたしたちは新生と全き聖化の体験をした後も、恵みから離れ、信仰を捨てる可能性がある

こと、そして罪を悔い改めない限り、望みなく永遠に失われた状態にあることを信じます。

【神のかたちと道徳的責任：創1：26～27、2：16～17、申28：1～2、30：19、ヨシ24：15、詩8：3～5、イザ1：8～10、エレ31：29～30、エゼ18：1～4、ミカ6：8、ロマ1：19～20、2：1～16、14：7～12、ガラ6：7～8】

【自分の自然な強さによって信仰と神に立ち帰る働きができないこと：ヨブ14：4、15：14、詩14：1～4、51：5、ヨハ3：6a、ロマ3：10～12、5：12～14、20a、7：14～25】

【無償の恵みと信仰の働き：エゼ18：25～26、ヨハ1：12～13、3：6b、使5：31、ロマ5：6～8、18、6：15～16、23、10：6～8、11：22、1コリ2：9～14、10：1～12、IIコリ5：18～19、ガラ5：6、エフェ2：8～10、フィリ2：12～13、コロ1：21～23、IIテモ4：10a、テト2：11～14、ヘブ2：1～3、3：12～15、6：4～6、10：26～31、ヤコ2：18～22、IIペト1：10～11、2：20～22】

8. 悔い改め

わたしたちは救いのためには悔い改めが必要であると信じます。悔い改めとは罪に対する信実で徹底した心の変化であり、個人としての罪責感を抱いて、罪から自発的に離れることであり、行為と意図において神に反して罪びととなったすべての人に求められていることです。神の霊は悔い改める者すべてに、悔い改めの心と憐れみへの望みのために恵みによる助けを与え、赦しと霊的命を信じるようにしていただきます。

【代下7：14、詩32：5～6、51：1～17、イザ55：6～7、エレ3：12～14、エゼ18：30～32、33：14～16、マコ1：14～15、ルカ3：1～14、13：1～5、18：9～14、使2：38、3：19、5：31、17：30～31、26：16～18、ロマ2：4、IIコリ7：8～11、Iテサ1：9、IIペト3：9】

9. 義認、新生、神の子とされること

わたしたちは、義認とは神の恵みによる法的行為であり、すべての罪責の完全な赦しと犯された罪の刑罰からの完全な解放、そして義とされることであり、イエス・キリストを信じ、キリストを主また救い主として受け入れるすべての人に与えられることを信じます。

9.1 わたしたちは、再生または新生は神の恵み深い働きであり、それによって悔い改める信仰者の道徳的本性が霊的に回復され、信仰と愛と従順を可能とする確かな霊的命が与えられることを信じます。

9.2 わたしたちは神の子とされることが神の恵みによる働きであり、義とされ再生された信仰者が神の子にされることであると信じます。

9.3 わたしたちは、義認、新生、神の子とされることは、神を求める者が同時に体験するこ

とであり、悔い改めの後に信仰によって得られるものであること、そして聖霊がこの恵みの働きと状態を証することを信じます。

【ルカ18：14、ヨハ1：12～13、3：3～8、5：24、使13：39、ロマ1：17、3：21～26、28、4：5～9、17～25、5：1、16～19、6：4、7：6、8：1、15～17、1コリ1：30、6：11、2コリ5：17～21、ガラ2：16～21、3：1～14、26、4：4～7、エフェ1：6～7、2：1、4～5、フィリ3：3～9、コロ2：13、テト3：4～7、1ペト1：23、1ヨハ1：9、3：1～2、9、4：7、5：1、9～13、18】

10. キリスト者の聖性と全き聖化

わたしたちは、聖化とは神の働きであり、信じる者をキリストに似た者へと変容させるものであることを信じます。これは神の恵みにより聖霊をとおして、聖なる者とされること、もしくは再生（義人と同時に起きること）、全き聖化、そしてやがて栄化へと至る、完成への継続した聖霊の働きを意味します。栄化される時、わたしたちは神の御子の姿と完全に一致します。

わたしたちは全き聖化が神の働きであり、再生の後に起きることであると信じます。全き聖化により、信仰者は原罪もしくは腐敗性から自由にされ、完全な神への献身の状態に至らされ、愛における聖なる従順さにおいて完全にされることを信じます。

全き聖化は聖霊のバプテスマもしくは聖霊の満たしによってなされ、全き献身の後に、信仰をとおして恵みによって瞬間的になされます。聖霊がこの恵みの働きと状態を証します。

この体験は、さまざまな局面を持つので、いろいろな名称で呼ばれています。すなわち「キリスト者の完全」「全き愛」「心のきよさ」「聖霊のバプテスマ、もしくは聖霊の満たし」「祝福の充満」「キリスト者の聖潔」など。

10.1 わたしたちは、心のきよさと成熟した品性との間に明確な区別があると信じます。前者は全き聖化の結果として瞬間的に得られるものですが、後者は恵みの内に成長する結果として得られるものです。

わたしたちは、全き聖化の恵みには、恵みの内にキリストに倣う弟子への成長を促す神からの衝動が含まれると信じます。しかし、この衝動は意識的に生まれねばならず、霊的な成長と、品性と人格においてキリストに似た者となる必要性と過程に対して細心の注意が払われねばなりません。そのような意図的な努力なしには、その人の証は損なわれ、神の恵みも無駄になり、ついには失われる結果となります。

恵みの手段、特に交わり、訓練、教会の秘跡（サクラメント）に参加することによって、信仰者は恵みの内に成長し、神と隣人を心から愛する者となります。

【エレ31：31～34、エゼ36：25～27、マラ3：2～3、マタ3：11～12、ルカ3：16～17、ヨハ7：37～39、14：15～23、17：6～20、使1：5、2：1～4、15：8～9、ロマ6：11～13、19、8：1～4、8～14、12：1～2、Ⅱコリ6：14～7：1、ガラ2：20、5：16～25、エフェ3：14～21、5：17～18、25～27、フィリ3：10～15、コロ3：1～17、1テサ5：23～24、ヘブ4：9～11、10：10～17、12：1～2、13：12、Ⅰヨハ1：7,9】

【「全きキリスト者」、「全き愛」：申30：6、マタ5：43～48、22：37～40、ロマ12：9～21、13：8～10、Ⅰコリ13：フィリ3：10～15、ヘブ6：1、Ⅰヨハ4：17～18】

【「清い心」：マタ5：8、使15：8～9、Ⅰペト1：22、Ⅰヨハ3：3】

【「聖霊による洗礼」：エレ31：31～34、エゼ36：25～27、マラ3：2～3、マタ3：11～12、ルカ3：16～17、使1：5、2：1～4、15：8～9】

【「満ち溢れる祝福」：ロマ15：29】

【「全き聖化」：マタ5：1～7：29、ヨハ15：1～11、ロマ12：1～15：3、Ⅱコリ7：1、エフェ4：17～5：20、フィリ1：9～11、3：12～15、コロ2：20～3：17、1テサ3：13、4：7～8、5：23、Ⅱテモ2：19～22、ヘブ10：19～25、12：14、13：20～21、Ⅰペト1：15～16、Ⅱペト1：1～11、3：18、ユダ20～21】

11. 教会

わたしたちは教会が、イエス・キリストを主と告白し、キリストにあって新しくされた神の契約の民、御言葉をとおして聖霊によって呼び集められたキリストの体であることを信じます。

神は、教会が聖霊の交わりと一致において、礼拝における御言葉の説教をとおして、秘跡（サクラメント）を執りおこなうことをとおして、そして主の御名による働きをとおして、キリストへの従順さと聖なる生活とお互いへの責任を負うことによって、その命を表現するために教会を召し出されます。

この世における教会の使命は、聖霊の力により、キリストのあがないと和解の働きを分かち合うことです。教会は、伝道によって弟子を作ること、教育すること、共感を表すこと、正義のために働くこと、そして神の国の証人となることをとおして、その使命を果たします。

教会は歴史的な実体であり、さまざまな文化に基づいて組織され、各地域において、また普遍的な体として存在しています。教会はまた、神のための固有の働きへと召された者たちを選び分かちます。神は、主イエス・キリストの再臨における完成を待ち望みつつ神の支配の下に生きるようにと、教会を召しておられます。

【出19：3、エレ31：33、マタ8：11、10：7、16：13～19、24、18：15～20、28：19～20、ヨハ17：14～26、20：21～23、使1：7～8、2：32～47、6：1～2、13：1、14：23、ロマ2：28～29、4：16、10：9～15、11：13～32、12：1～8、15：1～3、1コリ3：5～9、7：17、11：1、17～33、12：3、12～31、14：26～40、IIコリ5：11～6：1、ガラ5：6、13～14、6：1～5、15、エフェ4：1～17、5：25～27、フィリ2：1～1、1テサ4：1～12、1テモ4：13、ヘブ10：19～25、1ペト1：1～2、13、2：4～12、21、4：1～2、10～11、Iヨハ4：17、ユダ24、黙5：9～10】

12. 洗礼 (バプテスマ)

わたしたちは、キリスト教の洗礼 (バプテスマ) が主キリストによって命じられたものであり、キリストによる罪のあがないの恩恵を受けたことを表す秘跡 (サクラメント) であり、信じてイエス・キリストを救い主と言ひ表し、聖く正しく服従しようとする確固たる決意を表明する者に授けられるものであることを信じます。

洗礼は新しい契約のしるしですから、両親あるいは保護者が、その子に必要なキリスト教の養育を与える約束のもとで希望するならば、幼児に授けることができます。

洗礼は志願者の希望によって、滴礼、注礼、浸礼のどの方法を選択することができます。

【マタ3：1～7、28：16～20、使2：37～41、8：35～39、10：44～48、16：29～34、19：1～6、ロマ6：3～4、ガラ3：26～28、コロ2：12、1ペト3：18～22】

13. 聖餐 (主の晩餐)

わたしたちは、わたしたちの主であり救い主であるイエス・キリストによって制定された、記念の交わりの晩餐が、その本質において新約のサクラメントであり、犠牲としてのキリストの死が信じる者に命と救いを与え、キリストにあるすべての霊的約束にあずからせることを告げ知らせるものであると信じます。聖餐は明確にその意味を深く味わう準備ができている信仰者だけがあずかるものであり、聖餐をとおして信じる者は主が再び来られるまで主の死を告げ知らせます。そこで、聖餐の食卓には、キリストを信じる信仰と聖徒たちへの愛を抱く者だけが招かれるべきです。

【出12：1～14、マタ26：26～29、マコ14：22～25、ルカ22：17～20、ヨハ6：28～58、1コリ10：14～21、11：23～32】

14. 神による癒し

わたしたちは聖書の教理である、神による癒しを信じ、わたしたちの教会員に対して、病の癒しのために信仰をもって祈ることを勧めます。また、神が医療行為をとおして癒されることをも信じます。

【王下5：1～19、詩103：1～5、マタ4：23～24、9：18～35、ヨハ4：46～54、使5：12～16、9：32～42、14：8～15、1コリ12：4～11、11コリ12：7～10、ヤコ5：13～16】

15. キリストの再臨

わたしたちは主イエスが再び来られることを信じます。主の来臨の時に生きている者たちは、キリスト・イエスにおいて既に眠っている者に先立つことはありません。しかし、もしわたしたちがキリストの内にあるならば、わたしたちはよみがえらされた聖徒たちと共に上げられて空中で主に会い、常に主と共にいるようになることを信じます。

【マタ25：31～46、ヨハ14：1～3、使1：9～11、フィリ3：20～21、1テサ4：13～18、テト2：11～14、ヘブ9：26～28、11ペト3：3～15、黙1：7～8、22：7～20】

16. 復活、審判、永遠の定め

わたしたちは死者の復活、すなわち義なる者も不義なる者も、その体とその霊と共によみがえらされることを信じます。「善をおこなってきた者は命へとよみがえらせられ、悪をおこなってきた者は刑罰へとよみがえらされます。」

16.1 わたしたちはすべての人が神の前に立ち、この世でのおこないに従って、将来審判を受けることを信じます。

16.2 わたしたちは、主イエス・キリストを信じて救われ、従順に従う者には栄光ある永遠の命が保証され、最後まで悔い改めない者は地獄で永遠の苦しみを受けることを信じます。

【創18：25、サム上2：10、詩50：6、イザ26：19、ダニ12：2～3、マタ25：31～46、マコ9：43～48、ルカ16：19～31、20：27～38、ヨハ3：16～18、5：25～29、11：21～27、使17：30～31、ロマ2：1～16、14：7～12、1コリ15：12～58、11コリ5：10、11テサ1：5～10、黙20：11～15、22：1～15】

わたしたちの教会論

聖なるキリストの教会

わたしたちは聖書に基づいて自らを「神の民」とみなし、「一つの、聖なる、公同の、使徒的教会」であることを告白します。洗礼（バプテスマ）によってキリストの教会へと繋がれることは、神の先行する恵みと救いの恵みについての個人的かつ共同体的な証です。わたしたちの聖職者は「神の教会において」任職され、会衆は普遍的教会の具体的な現れです。わたしたちは、神と神の教会が聖であること、教会は神の恵みの手段として選ばれ、教会の命の力である聖霊によって存在へと召され、聖霊によってこの世界におけるキリストの生きた体とされているという聖書の証言を確信します。教会は、神を礼拝することが人の命にとってひとつの真実な焦点であるという真理の証人です。

したがって、教会は罪びとを悔い改めへと導いて生き方を正し、豊かな会衆生活ときよめられた生き方への招きをとおして、信仰者の内に聖なる生き方を育みます。こうした聖性と神への忠実さによって、教会はこの世に、自らの真実な使信を指し示すことを通じて、神の国を現わします。

神の使命に繋がる

もっとも重要なのはこの世界における神の宣教であり、わたしたちの宣教は神に由来しています。神はこの壮大な宇宙を形作り、自然と歴史の中において神の像をに担うことによって、神の愛が満ちあふれるようにと人を創造しました。罪が創造を損なうと、神の働きが持つあがないの性質が明らかにされました。それは「すべての被造物を神の創造の目的へと回復すること」です。そして、そのことの根源には人間の回復があります。

ジョン・ウェスレーはこのことを「聖化」、あるいは「わたしたちの魂の神の像への更新」と呼びました。このことは「義と真の聖性」によって特徴づけられます。神の宣教はアブラハムの召命にみることができます。神はアブラハムを選び祝して、彼の子孫が「すべての国民の祝福となる」（創12：1～2）と約束し、ヘブライ人の歴史にご自分を顕わされました。そのことをとおして彼らは唯一の神の証人となり、神の名を地の国々に宣べ伝えました。

キリスト者は神が聖なる三位一体であり、わたしたちの主イエス・キリストにおいてもっとも完全に顕わされていることを体験します。聖霊はわたしたちを召して力を与え、神の宣教に

わたしたちをあずからせます。教会はこの契約へと召され、聖別された生き方の一部として、諸国の人々の祝福と癒しの務めを継続します。わたしたちは神の宣教のために他のキリスト者と協力しますが、わたしたちはナザレン教会の制度が世界教会であるという視点を持ち、国家の境界が教会の境界を定めることはないと考えます。キリストはすべての国々と人々に教会を開いているからです。

世界においてキリストのように宣教する

キリスト者の使命の根拠は、キリストにおける神の愛を証言しなさいという聖書の命令です。信仰者はこの使命を洗礼において確信します。忠実な弟子であることは、わたしたちの内にある神の内的恵みの外的なしるしです。それはまた、神が「それほどまでに世を愛された」という神の恵みがこの世において実現していることのしるしでもあります。キリストの体の一部であるすべての信仰者は仕えるための備えを与えられています。また教会の指導者としての特別な召命を受けている者は、使徒的職務へと任職されます。その召命は深い人格的確信に基づくものです。

各個教会と部会の教職者と信徒は、必要な賜物と恵みが与えられていることを確信し、年会において教職者の按手を受けるべき人を選出します。執事は教会の働きにおいて、御言葉と主の晩餐の食卓にたずさわる以外の教会における諸々の働きのために按手されます。長老は福音の説教と、秘跡（サクラメント）を執りおこなうことと、礼拝において人々を養うこと、そして教会生活を秩序立てる働きのために按手されます。

監督（理事長）は部会あるいは総本部のために、年会（総会）において信徒と教職によって選出されます。部会監督は定められた地域で、教会と教会員、そして教職のための牧会と霊的指導を担います。（総）監督は使徒的・牧会的務めを全教团的に担い、協働する事をおして、キリストの生涯を模範としつつ、全教会が共に抱くことのできる幻を示します。

監督は国際的視野を優先すべきです。教会の幻と、さまざまな地域における教会の必要を明らかにし、世界宣教において窮乏している地域が必要とする資源を届けること、そして宣教と使信をおして教会を一致させることは、彼らの大切な務めです。世界各地の年会において教職者に按手を授けること、そしてその他のいろいろな方法をおして、監督は、国と、経済と、人種と、言語の甚大な多様性を持つ教派の統一性を保持します。

わたしたちの教会制度

ナザレン教会は常に自らを公同の教会の一つの表れとして理解してきました。聖書には教会制度の在り方について具体的な指示が記されていません。したがって、教会制度は聖書に反することがないかぎり、わたしたちの共通意見によって定めることができると考えます。

ナザレン教会は教職と信徒の発言権を強めて監督職の権限を抑制する仕方で、メソジスト教会の監督制度を民主的にした教会制度を採用しています。

以下は基本的なナザレン教会の教会制度です。

- ・わたしたちの教会制度には三つの段階があります。
 1. 各個教会の会衆は自分たちを代表する部会年会の代議員を選出します。
 2. 部会年会は四年に一度開催される世界総会への代議員を選出します。
 3. 世界総会の決定は、全教会とすべての部門に対する拘束力を持ちます。

- ・世界総会は監督を選出します。監督は教団のすべての働きを導き、全教会に対する管轄権を行使します。監督任期は世界総会から次の総会までであり、毎回再選されなければなりません。監督はそれぞれに部会が割り当てられ、それらの部会の年会を司り、責任を担う部会で新たな牧師の按手をおこないます。監督の定数は過去に変化してきましたが、1960年からは六名に固定しています。監督は全員で監督局を構成し、年に数回、監督会議を開催します。

- ・世界総会は教職と信徒が同数で構成される総会常議員を選出します。総会常議員は年に一度集まって総会常議員会を開催し、総本部の職務者と各部門の責任者を選任します。また総会常議員会は、教団の方針、予算、教団の宣教活動の運営などを総括します。

- ・各地域の教会は部会を構成し、部会監督（以下、理事長と称する）によって統括されます。部会の教会は宣教を目的として組織され、年に一度、年会で共に集います。年会は理事長を選出します。理事長の務めは、教会と牧師を霊的に養うこと、新たな教会を開拓すること、部会の健全性を保持することです。

- ・各個教会は理事長と協議し、理事長の承認のもと、牧師を招聘します。また各個教会は自分たちの財政と運営を担います。

- ・ナザレン教会の部会は世界地域を構成します。現在はアフリカ、アジア太平洋、ユーラシア、中米、南米、北米の六つの世界地域があります。これらの世界地域は教会の宣教的な枠組であって、行政的構造ではありません。
- ・教会と牧師館は信託条項により、部会が所有権を持ちます。
- ・女性と男性は区別なく、あらゆる職務と教会の働きを等しく担います。
- ・わたしたちはナザレン教会の教会規則を「マニュアル」（教会規程）と呼びます。マニュアルの変更は世界総会によってなされます。

【創18：25、サム上2：10、詩50：6、イザ26：19、ダニ12：2～3、マタ25：31～46、マコ9：43～48、ルカ16：19～31、20：27～38、ヨハ3：16～18、5：25～29、11：21～27、使17：30～31、ロマ2：1～16、14：7～12、1コリ15：12～58、2コリ5：10、2テサ1：5～10、黙20：11～15、22：1～15】

教会

各個教会

ナザレン教会は、すべての人が罪の赦しをとおして神の恵みによって変容され、イエス・キリストにあって聖霊の力による心のきよめを体験することを願いとします。

わたしたちにとって第一の使命は「国々でキリストに倣う弟子を作る」ことであり、信仰者を教会の交わりに加えて教会員とし、信仰によって応答するすべての人を弟子として備えることにあります。

信仰共同体の究極の目標は、終わりの日にすべての人がキリストにあって完全な者として（コロ1：28）神の前に立つことです。

信仰者の救い、完全さ、教え、派遣は各個教会においてなされます。個々の教会はキリストの体であり、わたしたちの信仰と宣教が表されるどころです。

部会（としての教会）

各個教会は運営上、部会（district）と地域（region）としてグループを構成します。

部会は、相互支援と賜物の分かち合い、協働をとおして宣教の働きを進めるために、各個教会が協力し補い合うために構成されている組織です。

部会監督（理事長）は部会理事会と共に、その部会を監督します。

総会（全体教会）

ナザレン教会の一体性は、『ナザレン教会規程』（マニュアル）に表記されている信条、組織、定義、諸規定に基づきます。

この一体性の核となるのは、『ナザレン教会規程』（マニュアル）に表明されている「信仰箇条」です。わたしたちの一体性が保たれるために、信仰箇条がすべての地域において、すべての言語に翻訳され、広く配布されることを勧めます。信仰箇条は、わたしたちがナザレン教会員としてすべての存在とおこないをとおして織り上げる布に織り込まれている、金糸にたとえるこ

とができます。

この一体性が目に見える形で現れるのが世界総会（the General Assembly）です。世界総会は「教理を定め、規則を制定し、ナザレン教会の役職者を選出する、最高の権限を持つ機関です」。（マニュアル 300）

目に見える形で現れる二番目は、ナザレン教会全体を代表する総会常議員会（the international General Board）です。

目に見える形で現れる三番目の機構は監督局（the Board of General Superintendents）です。監督局は『マニュアル』を解釈し、文化的適用を承認し、教職者に按手を授けます。

ナザレン教会は代議員制をとることにより、監督制と無制限な会衆制の両極端を避けています。

教会は単なる繋がりを超えて、互いに密接に結び合わされた関係の中にあります。わたしたちを繋ぐ絆は、いつでも簡単に切ることができてしまうような単一の線よりも、はるかに強いものです。

わたしたちの共通の絆はなんでしょうか。それは、イエス・キリストです。（ナザレン教会『マニュアル』2013-2017）

一つに結ばれた教会

ナザレン教会は「聖化共同体」として一つに結ばれています。したがって、独立した諸教会の単なる合同教会ではありません。また、何らかの共通する信仰や目的はあっても実際の有機的関係を持たない、諸教会の連合体でもありません。

ナザレン教会は明確に一つに結ばれた教会です。

このことが意味するのは、「国々でキリストに倣う弟子を作る」という共通の使命を果たすために、各個教会が互いに補い合う一つの体としての部会を構成するということです。わたしたちは宣教と、共通して掲げている信仰の一体性を維持するために、この使命に力を注ぐことについて互いに信頼できる在り方が求められます。

一つに結ばれた教会として、わたしたちは、

- ・信仰の内容を共有します。
- ・価値観を共有します。
- ・宣教の使命を共有します。
- ・責任を分かち合います。

責任を分かち合うということには、世界宣教基金および宣教献金をとおして宣教の働きを支援する財政的な責任への協力も含まれています。

1908年の設立以来、ナザレン教会は世界宣教によって「国々でキリストに倣う弟子を作る」働きを担ってきました。キリストのための宣教を進めている地域は今も拡がり、成長しています。皆さんは祈りと献金をとおして他の人々と繋がり、一人では到底成し得ない働きに関わることができます。それぞれの教会での献金は宣教の働きを目的としているからです。

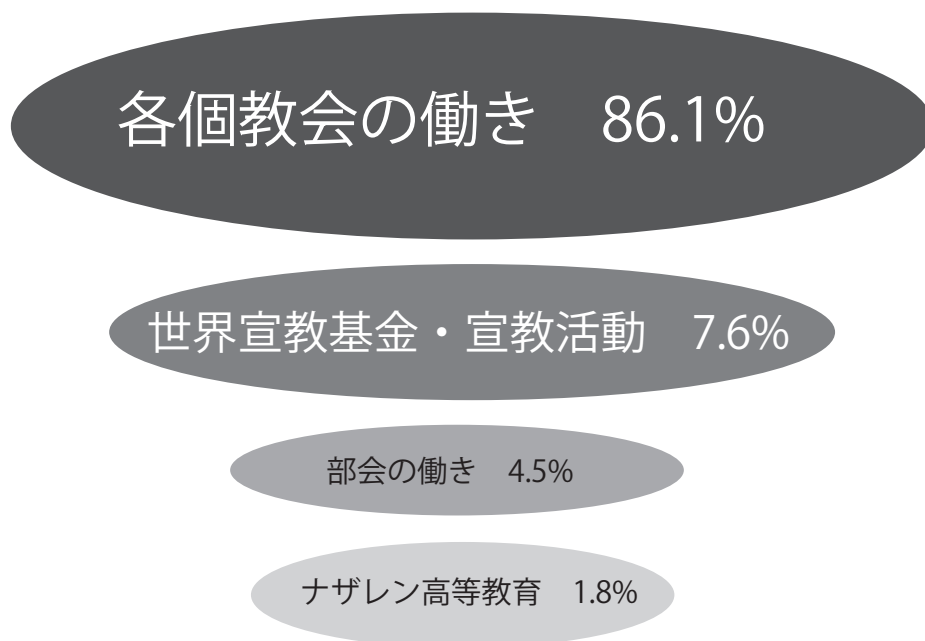
ナザレン教会は同額の献金という考えではなく、同じ犠牲を払うことを原則としています。このことは先進諸国と発展途上にある地域が含まれている世界教会にとって本質的なことであり、聖書的な立場に基づくものです。

世界宣教基金（The World Evangelism Fund）は全教团的な財政計画です。また、皆さんは折りに触れて「宣教献金」という言葉を耳にすることでしょう。これは世界宣教基金よりも広い意味で使われています。宣教献金は世界各地での諸々の宣教活動に用いられるものです。

教会の宣教と働きを世界宣教地域で進めるためには、熱心な力強い支援が必要です。宣教の

働きを財政的に支援することは、多くの人のための犠牲を伴う献げ物という意味において、教会にとって極めて重要なことです。

全世界の献金総額を見ると、その86.1%は各個教会のために用いられています。4.5%は部会の働きに充てられ、1.8%はナザレン大学はじめ教育関係に用いられています。したがって、皆さんの教会から7.6%が、宣教師のための基金と宣教活動、そしてその他のさまざまな宣教の働きのために用いられていることとなります。



ナザレン教会の財政図版

皆さんの献金が、子どもたち、青年たち、大人たちに福音を伝え、教育し、弟子を育てるために用いられていることがお分かりいただけたでしょうか。皆さんが献金を献げるとき、それは一つに結ばれた教会としてのナザレンの群れの働きに参加することになります。このことをとおして、皆さんは世界中の傷ついた人々や失われた魂を愛し、「国々でキリストに倣う弟子を作る」働きに参加しているのです。

世界宣教基金とさまざまな宣教活動のための献金を献げるとは、わたしたちが担うべき責任を分かち合うことに他なりません。そのことをとおして、教会が宣教師を派遣し、現地の指導者を育成し、教育者を派遣して伝道し、弟子を育成し、次世代のナザレン教会員を教え育てることができるのです。

わたしたちは初代監督フィニアス・F・ブリジーの幻が実現されていることの生き証人です。ブリジー博士は最初から、ナザレン教会が「主へと至る救いと聖化」によって世界を駆け巡るという「神の展望（パノラマ）」について語ってきました。

すべてのナザレン教会員は、どこにしようとも、さらに大きく広がったこの幻の現実に参加しています。

生涯が変えられたという一人ひとりの体験は、ウェスレー・ホーリネス主義が説く、「すべての人ための全き救い」の証言に他なりません。

教会の使命である「国々でキリストに倣う弟子を作る」ことは、わたしたちにある重要なことを思い起こさせます。わたしたちは霊的な使命を与えられていること、そして主によって与えられたすべての賜物の良き管理者でなければならないということです。

宣教は神から来ます。したがって、わたしたちの目的は神の命令によって与えられているものであり、わたしたちの内に宿る聖霊によって可能とされます。

わたしたちは「受け継いだ良い遺産」を尊重すると同時に、教会は後戻りすることも、現状に止まったままでもいけないことを知っています。イエス・キリストに従う者として、わたしたちは「神が設計者であり建設者である堅固な土台を持つ都」を目指して、絶え間なく前進し続けようではありませんか。

見よ、神はすべてを新たにされる！

日本ナザレン教団 宣教宣言

前 文

1) 主イエス・キリストによって召された神の民

わたしたちは、主イエス・キリストによって罪あがなわれ、神の救いにあずかるようにと教会に召され、キリストにある天の国と永遠の命の望みを抱いて、恵みと祝福の内に生きています。この救いの御業にあずかる者とされたことを喜び、感謝を捧げて生きることが、わたしたちの務めであり、わたしたちの歩む道です。

しかし、わたしたちは自らの救いと祝福を喜び満足するだけに終わる共同体であってはなりません。パウロは教会を「召されて聖なる者となった」人たちと定義づけています(ローマ1:7)。「召されて」と訳されたギリシア語「クレトス」は、「呼び出された」という意味の語です。「呼び出す」という以上、そこには神の目的と計画があるはずで、神がわたしたちを呼び出すのは、わたしたちに対する目的と計画があり、そのために身分を与え、役割を果たさせるためです。パウロは「召されて聖なる者となったローマの人々へ」と呼びかけました。ローマの人々は「聖なる者」としての召命を受けているのであり、したがって、教会はこの世のいかなる共同体とも異なる、聖なる者の共同体です。御子キリストによる救いにあずかり、神の愛と憐れみに基づく平和を作り、祈りと感謝と交わりを生き、神を賛美し栄光を神に帰すことが教会の本質です。その意味で、教会の存在自体が宣教の業に他なりません。

2) 福音を宣べ伝える務め

さらに教会は、主キリストが再び来られる時に神の国が成就することを待ち望み、永遠の命の望みを抱く者の共同体です。この信仰に立つわたしたちは、この良い知らせを自らの喜びとして生きると共に、世の人々に宣べ伝える福音の使者として召されています。すべての人々に福音を宣べ伝えてキリストの弟子とする務めは、宣教者・伝道者だけに委ねられているのではなく、キリスト御自身からすべての信仰者に委ねられている務めです。

かつて、ローマのキリスト教徒は、ローマにおいて召され、ローマに遣わされました。パウロ時代のローマは、キリスト教に好意的な世界ではなく、信仰的に生きることは困難で、多くの試練と誘惑の満ちた世界でした。街中に異教の神殿が建ち並び、神社や祠が存在し、昔からの風習や儀式が人々を拘束し、それらの多くは反キリスト的でした。国家としての帝国は軍事大国であり、軍隊の頂点に立つ皇帝崇拜が要求されました。そして、なによりもキリスト教信仰そのものが違法として禁じられていました。そのような時代の、そのような世界の中で彼らは聖なる者として召され、福音の使者としてその世界へと遣わされたのです。現代のわたした

ちも同じです。わたしたちの時代、わたしたちの世界も、異教的で反キリスト的です。しかし、わたしたちはそのような今の時代、今の世界の中で主キリストに召され、果たすべき使命を委ねられて遣わされているのです。

わたしたちは、キリストを信じる信仰を共有する神の民の共同体であることを自覚し、キリストが霊において共にいてくださると信じつつ、聖霊に励まされて、聖なる者としての生活を守り、委ねられた務めを果たすことを喜びとしてゆくののです。

わたしたちは、宣教が本質において神の業であり、教会はその神の業をこの世に表すために召し出された、神の民の共同体であることを信じます。

神は、この世において神の救いの業を証し、キリストを信じる人々を呼び集め、神を礼拝し、キリストが再び来られる時まで神の御旨を表し続ける働きを、弟子たちに委ねられました。「あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい」と命じられたとおりです（マタイ 28:19）。キリストの弟子は初代の人々で終わるのではなく、キリストを信じる者は皆、世々にわたってキリストの弟子として召されてきたのであり、その自覚をもって主キリストに従い続けてきました。今日、わたしたちも主の弟子として招かれていることを忘れてはなりません。そのことを世界ナザレン教会は、「キリストに倣う弟子を作る」使命として表明しています。「キリストに倣う弟子」ということの中に、福音を生き、宣教することのすべてが言い表されているからです。したがって教会は、神の恵みを受ける共同体であると同時に、神の宣教のために遣わされる共同体です。教会に集う一人ひとり、キリストの弟子として、宣教の働きを主キリスト御自身から委ねられているのです。

3) 主に仕えることを喜ぶ

教会が宣教共同体であるということは、教会に集う者たちすべてが、自らの本性と存在意義を自覚するということです。教会は、神の国を目指して世を旅する神の民の群れです。その旅の途上、わたしたちは、礼拝を捧げ、教会の交わりを喜び、御言葉に学び、神と人々に仕えることをとおして、信仰が養われ、聖なる民としての恵みにあずかり、この群れに受け入れられていることを神に感謝し、神の民として生きることを喜びとするのです。その意味で、教会はこの世から分離された共同体です。この世の定住者となってこの世の内にあるものを究極の目標とするのではなく、神の国と神の義を価値あるものとして第一に求め、主に仕えること喜びとすることが、わたしたちの生きる道です。

4) 世の光として生きる

また教会は、世に神の愛と憐れみを表し、神の正義と公平を実現することを使命として世に遣わされています。わたしたちはこの世に神の光を輝かせるべき、世の光です。したがって、教会はこの世において生き、この世に浸透しなければなりません。その時、教会はこの世の権

力、この世の支配の側に立つのではなく、弱い者、小さな者の側に立ちます。わたしたちの教会は、かつてその務めを果たすことに失敗しました。太平洋戦争の時、教会は軍事支配の側に立ち、教会としての歩みを誤り、アジア諸国の人々に多くの災いをもたらす側の手助けをしました。この事実を、わたしたちは「第二次大戦下における日本ナザレン教団の責任についての告白」で認め、悔い改めと謝罪を表明しました。この告白を基として、わたしたちはアジア諸国の教会との交わりを回復して今日に至っていることを思い起こします。わたしたちは、これからも戦争責任告白において表明した和解の務めを果たし、主キリストの平和を世に表す宣教の働きを進め、弱い者、小さな者へのキリストのまなざしを忘れないことを表明します。

5) 宣教の働きを進める決意

神は、宣教の業を教会に委ねてくださいました。そのためには、教会が継続して世に存在しなければなりません。わたしたちが教会を形成し、世の終わりまで存続してゆくことは、教会が宣教の働きを担うために不可欠です。わたしたちが教会の使命と責任を果たすことを願い、祈り求めるならば、その働きを担うために必要な守りと導き、恵みと祝福は神が備えてくださることでしょう。

わたしたちナザレン教会は、喜びをもって主キリストに仕え、宣教の働きを進める決意を新たにしましょう。わたしたちは伝道の困難さ、進展の乏しさに失望落胆することをせず、各個人、各教会、教団がそれぞれ自分たちにできる働きを祈り求め、喜びと感謝をもって実行してゆきます。それは、教会の成長と数的増加といった自己目的のためではなく、ナザレン教会が神の宣教を担い、すべての民をキリストの弟子となし、福音を地の果てにまで宣べ伝える使命を果たすことが、神からわたしたちに与えられた宣教命令だと信じるからです。そこでわたしたちは、以下のとおり宣言いたします。

宣教宣言

「喜びをもって主に仕え」

わたしたちは、教会が主イエス・キリストの十字架と復活により罪あがなわれ、召されて聖なる者とされた神の民の共同体であると信じます。教会は天の国を目指して世を旅する神の民の群れであると同時に、この世に神の福音を宣べ伝え、御旨を表す使命を授けられて生きる神の民の群れです。

わたしたちは、父なる神が福音を世にもたらすために御子を遣わされたように、御子キリストが福音を世に告げ知らせるために教会を遣わしておられることを信じます。

わたしたちは主キリストに遣わされた者として、神の国と神の義を第一に求め、聖化の恵みに感謝し、「キリストに倣う弟子」にふさわしい生き方を心がけます。

わたしたちは主に遣わされた者として、霊と真実をもって神を礼拝し、愛と憐れみ、和解と平和の交わりを、教会の内においても外においても作ります。

わたしたちは主に遣わされた者として、良い時も悪い時も主の救いと恵みを証し、あらゆる機会と方法を用いて福音を宣べ伝えます。

わたしたちはこの世の支配者、権力者の側にではなく、主キリストに倣って、弱い者、小さい者の側に立ち、平和の福音の使者となります。

わたしたちは、この福音宣教の業にあずかる者とされたことを主に感謝し、喜びをもって主に仕えることを、ここに宣言します。

～あとがき～

日本語版ナザレンエッセンシャルズ『ナザレン教会の信仰』 総監修 石田 学

このたび、『ナザレン教会の信仰』(Nazarene Essentials)の日本語版が出版されますことを、心より嬉しく思います。本書はナザレン教会の信仰告白、歴史、特徴、信仰の精髓、宣教への情熱と幻、そして教会組織について、分かりやすく説明するものです。

なぜこのような冊子が全世界のナザレン教会のために必要となったのでしょうか。それは、ナザレン教会がこの二十年ほどで急速に世界教会化したからです。もとより、ナザレン教会はそのはじまりの時代から、世界宣教に取り組み、宣教師を世界各地に送ってまいりました。その意味では最初から世界教会でした。しかし、この二十年ほどの間に、ナザレン教会にかぎらず、世界のキリスト教事情は劇的に変化してきました。その変化をもっとも象徴するのが、世界におけるキリスト教人口の変動です。キリスト教は八世紀以降、近代に至るまで西欧の信仰とみなされてきました。事実、キリスト教徒の過半数は米国を含めた西欧諸国に住んでいました。キリスト教はたしかに「西洋の宗教」でした。

時代が二十一世紀に切り替わるのとほぼ同時期に、キリスト教徒の人口比率からみれば、キリスト教は西欧の宗教ではなくなりました。ヨーロッパ・北アメリカのキリスト教人口比率が、全キリスト教徒の42%に対して、アフリカ・アジア・ラテンアメリカの比率が57%になりました。西欧諸国以外に居住するキリスト教徒が、過半数を越えたのです。

ナザレン教会も例外ではありません。今日、ナザレン教会員の過半数が非西欧地域に住んでいます。ラテンアメリカとアフリカ、そしてアジア地域で増加しているのです。それに伴い、言語、文化、生活習慣が多様になり、ナザレン教会としての交わりと一致が自明ではなくなりました。多様性と多元化を神の祝福として喜びつつ、一つの世界教会としての一体性をどう保つかが重要課題となりました。ナザレン教会の信仰についての基本理解を共有しつつ多様性の恵みを喜び合う目的で刊行されたのが、『ナザレン教会の信仰』です。

本書は教会規則(Manual)ではなく、各個教会、個々の信仰者を拘束する規定ではありません。ナザレン教会とはどのような教会であり、何を願い、祈り、目指し、何に基づいて共に歩むかを共有し、信仰的一致と協働を深めるための手引きです。この冊子を杓子定規に当てはめるのではなく、喜ばしいガイドラインとして用いることが、本来の趣旨です。

翻訳を分担してくださった方々のおかげで日本語版を出版することができました。翻訳に携わってくださった、岩渕史子姉、江頭真彦兄、長祐樹兄、西川光姉、和知淳子姉(五十音順)の皆さまの労に、心から感謝いたします。これらの兄姉の翻訳を踏まえて、石田が監修者として、訳語・文体・表記・内容を整えさせていただきました。彼らの作業がなければ、本書の翻訳出版は実現しませんでした。特に、翻訳陣のまとめ役として情熱的に責任を担ってくださった江頭兄に深く感謝します。出版のための作業を担ってくださった永野健一先生と出版委員会の皆さまの御労に感謝します。

本書をとおして、全国のナザレン教会の兄弟姉妹が信仰の励ましを得て、ナザレン教会に属することへの感謝と喜びが増し加えられ、宣教への情熱が強められることを切に願い、祈ります。栄光が主なる神のみに帰されますように(Soli Deo Gloria!)

【聖書 略号一覧】

《旧約聖書》	
創	創世記
出	出エジプト記
レビ	レビ記
民	民数記
申	申命記
ヨシ	ヨシュア記
士	士師記
ルツ	ルツ記
サム上	サムエル記上
サム下	サムエル記下
王上	列王記上
王下	列王記下
代上	歴代誌上
代下	歴代誌下
エズ	エズラ記
ネヘ	ネヘミヤ記
エス	エステル記
ヨブ	ヨブ記
詩	詩編
箴	箴言
コヘ	コヘレトの言葉
雅	雅歌
イザ	イザヤ書
エレ	エレミヤ書
哀	哀歌

エゼ	エゼキエル書
ダニ	ダニエル書
ホセ	ホセア書
ヨエ	ヨエル書
アモ	アモス書
オバ	オバデヤ書
ヨナ	ヨナ書
ミカ	ミカ書
ナホ	ナホム書
ハバ	ハバクク書
ゼファ	ゼファニヤ書
ハガ	ハガイ書
ゼカ	ゼカリヤ書
マラ	マラキ書
《新約聖書》	
マタ	マタイによる福音書
マコ	マルコによる福音書
ルカ	ルカによる福音書
ヨハ	ヨハネによる福音書
使	使徒言行録
ロマ	ローマの信徒への手紙
Ⅰコリ	コリントの信徒への手紙一
Ⅱコリ	コリントの信徒への手紙二
ガラ	ガラテヤの信徒への手紙
エフェ	エフェソの信徒へ手紙

フィリ	フィリピの信徒への手紙
コロ	コロサイの信徒への手紙
Ⅰテサ	テサロニケの信徒への手紙一
Ⅱテサ	テサロニケの信徒への手紙二
Ⅰテモ	テモテへの手紙一
Ⅱテモ	テモテへの手紙二
テト	テトスへの手紙
フィレ	フィレモンへの手紙
ヘブ	ヘブライ人への手紙
ヤコ	ヤコブの手紙
Ⅰペト	ペトロの手紙一
Ⅱペト	ペトロの手紙二
Ⅰヨハ	ヨハネの手紙一
Ⅱヨハ	ヨハネの手紙二
Ⅲヨハ	ヨハネの手紙三
ユダ	ユダの手紙
黙	ヨハネの黙示録


総監修：石田 学

翻訳：岩渕史子、長祐樹、和知淳子、西川 光、江頭真彦

印刷編集：出版委員会

発行年月：2015年12月

発行者：日本ナザレン教団



ナザレン教会の信仰

Nazarene Essentials

～わたしたちは何者か そして何を信じているのか～